
大里郡川本町

如意遺跡

大里農地防災事業六堰頭首工建設工事事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

— I —

2001

農林水産省 関東農政局

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



如意遺跡遠景



第1号窟跡

発刊によせて

埼玉県北部に位置する荒川中流低地は、県下有数の農業地帯で、首都圏への農産物の安定供給などに欠かせない地域となっています。

六堰頭首工は、江戸時代に開削された農業用水への六箇所の取水堰を昭和初期に一箇所に統合し、熊谷市など2市3町2村にわたる取水施設として建設されたものです。

しかし、近年は荒川の河床低下などで機能が著しく低下するとともに、周辺の都市化や混住化により、農業用水としての水質悪化などの問題が生じております。

そこで、「大里農地防災事業計画」に基づき、六堰頭首工の改築と基幹水路の改修を行うこととなりました。頭首工位置決定には計画洪水量への影響の有無や構造、規模、取水の確保だけでなく、川本町指定名勝「鶯の瀬」や周辺の自然環境保護の観点から、現在より100m下流に改築することといたしました。

この事業は、用水施設の機能回復と災害の未然防止及び農業用水の水質改善を行い、農業用水の合理的利用、管理形態の適正化、農業生産環境の改善を図り、農業生産性の向上と農業経営安定化に寄与しようとするものです。

また、このたびの事業地内には、古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡が確認されていましたが、それらがこの地の古代の生活を知る上で貴重な埋蔵文化財との認識のもと、やむを得ず現状保存できない部分については、発掘調査を行い記録保存の措置をとりました。

ここに、成果の一部を報告書にまとめ刊行することにいたしました。地域の歴史を後世に伝える貴重な資料として活用されることを祈念して発刊の辞といたします。

平成13年3月

農林水産省関東農政局

埼玉東部土地改良建設事務所

所長 伊藤 一幸

序

埼玉の母なる川、荒川は、甲武信岳をはじめ奥秩父山地を水源とし、埼玉県の中央部を貫流し、途中幾多の支流を集めながら流域を潤し、常に人々の生活と密接に関わりをもってきました。また、川本町の荒川には白鳥の飛来地として、毎年の冬の到来とともに数十羽のコハクチョウが飛来し、人々の目を楽しませています。

この豊かな自然環境の中で、古代から生活の場としてこの地に暮らしてきた証として、多くの足跡が残されています。現在では、首都圏近郊における重要な食料生産地として、また花卉栽培なども盛んに行われています。

さらに荒川は農業用水利施設として、近世に六箇所の堰が設けられ、これらを荒川六堰と総称しました。昭和14年に六箇所の堰を統合し六堰頭首工が整備されましたが、現在の六堰頭首工は、荒川の河床低下や都市化など環境変化による問題が生じてきました。こうした事態に対応するため、農林水産省が主体となり、六堰頭首工改築工事が計画されました。

改築工事事業地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地として、如意遺跡・川端遺跡の一部が該当しておりました。上記の埋蔵文化財の取扱については、関係諸機関で慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置が講じられることとなりました。

発掘調査は、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整に基づき、農林水産省関東農政局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、如意遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代にわたる集落遺跡であることが明らかになり、堅穴住居跡や土器焼成遺構などの、貴重な埋蔵文化財が発見されました。また、堅穴住居跡からは、古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器や須恵器が出土し、当地域の歴史を明らかにする上で貴重な発見となりました。

これらの成果をまとめた本書が、埋蔵文化財の保護、普及啓発さらには学術研究の資料として広く活用いただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただいた埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、農林水産省関東農政局、川本町教育委員会ならびに地元関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

財団法人 埼玉埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野 健 一

例言

- 1 本書は、埼玉県大里郡川本町に所在する如意遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
如意遺跡（67-004）NYI
第1次
大里郡川本町大字畠山字392-2他
平成9年12月5日付け教文第2-147号
- 3 発掘調査は大里農地防災事業六堰頭首工建設工事事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、農林水産省関東農政局の委託を受け財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 本事業は、第1章の組織により実施した。本事業のうち発掘調査については、利根川章彦、山本禎、瀧瀬芳之、栗岡潤が担当し、平成9年10月1日から平成10年6月15日まで実施した。
- 5 遺跡の基準点測量は、新日本航測株式会社へ委託した。
- 6 写真は、発掘調査時の撮影を各担当者が行い、遺物の撮影は、大屋道則が行った。
- 7 出土品の整理・図版の作成は桜井元子の協力を得て山本が行った。
- 8 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、S J 2の銅製品を瀧瀬芳之が、他を山本が行った。
- 9 本書の編集は、山本が行った。
- 10 本書に掲載した資料は、平成13年度以降埼玉県埋蔵文化財センターが管理・保管する。
- 11 本書の作成に際し、下記の方々から御教示、御指導を賜った。（敬称略）
川本町教育委員会、村松 篤

凡例

- 遺跡全体におけるX・Yの数値は、国土標準平面直角座標第Ⅸ系（原点：北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒）に基づく各座標値を示す。また、各挿図における方位は、すべて座標北を示す。
- 遺跡におけるグリッドの設置は、国土標準直角座標に基づいて設置しており、10m×10mの方眼である。
- グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向は西から東へ1、2、3、…南北方向は北から南へA、B、C…と付け、例えば、A-1グリッドの様に名称を付けている。
- 本書の本文・挿図・表などの遺構の略号は以下のとおりである。

SJ	竪穴住居跡	SK	土坑
SF	窯跡	SX	性格不明遺構
- 本文中の挿図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

調査区全測図	1:400	
竪穴住居跡	1:60	1:30
土坑・鍛冶炉・ピット	1:30	
土器実測図	1:4	
紡錘車・砥石	1:3	
石製模造品・金属製品類	1:2	
玉類	1:1	
- 須恵器は断面に黒塗りを施してある。
遺物の網は20%が赤彩、30%が黒色、50%が油煙を表す。
- 遺構図における水平数値は、海拔高度を示しており、単位はmである。
- 遺物観察表は次のとおりである。
 - 口径・器高・底径は、cmを単位とする。
 - ()内の数値は推定値である。
 - 胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。
A-石英、B-白色粒子、C-長石、D-角閃石、E-赤色粒子、F-黒色粒子、G-雲母、H-片岩、I-白色針状物質、J-砂粒、K-チャート、L-小礫
 - 焼成は、良好、普通、不良の3段階に分けた。
 - 残存率は図示した器形の部分に対して、%で表した。
 - 備考欄には、初めに出土位置等を記し、出土位置で「床+5cm」とは床の上5cmの高さを示す。
- 土錘観察表は次のとおりである。
 - 長さ・径・孔径は、cmを単位とする。径は最大径である。重さはgを単位とする。
 - ()は現存長・径・重さを表す。
 - 分類については、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第241集『如意／如意南』のP.161-162を参照されたい。
- 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図と国土地理院の承認を受け作成された川本町地形図1/2,500を使用した。

目次

口絵

発刊に寄せて

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	2. 土坑	203
1. 発掘調査に至る経過	1	3. 性格不明遺構	218
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	4. 窯跡	228
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	5. 鍛冶炉跡	230
II 遺跡の立地と環境	4	6. 精錬炉跡	231
III 遺跡の概要	8	7. ビット	231
IV 遺構と遺物	12	8. グリッド出土・表採遺物	236
1. 住居跡	12	V まとめ	240

挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形	4	第35図	第19号住居跡	44
第2図	周辺の遺跡	5	第36図	第20号住居跡カマド・出土遺物	45
第3図	調査区周辺の地形図	9	第37図	第21号住居跡・カマド	46
第4図	調査区全測図(1)	10	第38図	第21号住居跡出土遺物	47
第5図	調査区全測図(2)	11	第39図	第22号住居跡	48
第6図	第1号住居跡出土遺物	12	第40図	第23号住居跡・カマド	49
第7図	第1号住居跡・カマド	13	第41図	第23号住居跡出土遺物	50
第8図	第2号住居跡・カマド	14	第42図	第24号住居跡カマド	50
第9図	第2号住居跡出土遺物	15	第43図	第25号住居跡・カマド	51
第10図	第3号住居跡	16	第44図	第25号住居跡出土遺物	52
第11図	第4号住居跡	17	第45図	第26号住居跡	53
第12図	第5号住居跡	18	第46図	第27号住居跡	55
第13図	第5号住居跡出土遺物	19	第47図	第28号住居跡・カマド	56
第14図	第6号住居跡・カマドB	21	第48図	第28号住居跡出土遺物	57
第15図	第6号住居跡カマドA・出土遺物	22	第49図	第29号住居跡	58
第16図	第7号住居跡	23	第50図	第29号住居跡出土遺物	59
第17図	第8号住居跡・カマド	24	第51図	第30号住居跡・カマド	60
第18図	第8号住居跡出土遺物	25	第52図	第30号住居跡出土遺物	61
第19図	第9号住居跡	26	第53図	第31号住居跡・カマド	62
第20図	第10号住居跡出土遺物	27	第54図	第32号住居跡	64
第21図	第10号住居跡	28	第55図	第33号住居跡・カマド	65
第22図	第11号住居跡・カマド	29	第56図	第33号住居跡出土遺物	66
第23図	第12号住居跡	31	第57図	第34号住居跡	67
第24図	第13号住居跡・カマド	32	第58図	第34号住居跡カマド・出土遺物	68
第25図	第13号住居跡出土遺物	33	第59図	第35・37号住居跡・出土遺物	69
第26図	第14号住居跡出土遺物	33	第60図	第36号住居跡	71
第27図	第14号住居跡・カマド	34	第61図	第38号住居跡・カマド	72
第28図	第15号住居跡	36	第62図	第39号住居跡	73
第29図	第15号住居跡カマド・出土遺物	37	第63図	第40号住居跡・カマド	74
第30図	第16号住居跡	38	第64図	第40号住居跡出土遺物	75
第31図	第17号住居跡	39	第65図	第41号住居跡カマド・出土遺物	76
第32図	第18号住居跡	40	第66図	第42号住居跡出土遺物	76
第33図	第18号住居跡カマドA・B、 出土遺物(1)	41	第67図	第42号住居跡	77
第34図	第18号住居跡出土遺物(2)	42	第68図	第43号住居跡	78
			第69図	第44号住居跡	79

第70図	第45号住居跡	80	第107図	第72号住居跡・カマド	120
第71図	第45号住居跡カマド・出土遺物(1)	81	第108図	第72号住居跡出土遺物	121
第72図	第45号住居跡出土遺物(2)	82	第109図	第73号住居跡	122
第73図	第45号住居跡出土遺物(3)	83	第110図	第74号住居跡	124
第74図	第46号住居跡	84	第111図	第75・76号住居跡	125
第75図	第47号住居跡カマド	84	第112図	第75号住居跡カマド	
第76図	第48号住居跡カマド	85		第75・76号住居跡出土遺物	126
第77図	第49号住居跡	86	第113図	第77号住居跡カマド・出土遺物	128
第78図	第50号住居跡	87	第114図	第78号住居跡	129
第79図	第51号住居跡・カマド	88	第115図	第78号住居跡カマド	130
第80図	第52号住居跡	89	第116図	第78号住居跡出土遺物	131
第81図	第53号住居跡カマド	89	第117図	第79号住居跡・カマド	133
第82図	第54号住居跡	90	第118図	第79号住居跡出土遺物	134
第83図	第54号住居跡カマド・出土遺物	91	第119図	第78・79号住居跡出土遺物	136
第84図	第55号住居跡・出土遺物	93	第120図	第80号住居跡	138
第85図	第56号住居跡・カマド	94	第121図	第80号住居跡カマド	139
第86図	第56号住居跡出土遺物	95	第122図	第81号住居跡	139
第87図	第57号住居跡	95	第123図	第80号住居跡出土遺物(1)	140
第88図	第58号住居跡	96	第124図	第80号住居跡出土遺物(2)	141
第89図	第59号住居跡	97	第125図	第80号住居跡出土遺物(3)	142
第90図	第60号住居跡出土遺物	98	第126図	第82号住居跡・出土遺物	143
第91図	第60号住居跡・カマド	99	第127図	第83号住居跡・出土遺物	144
第92図	第61号住居跡	101	第128図	第84号住居跡・カマド	145
第93図	第62号住居跡・出土遺物	102	第129図	第84号住居跡出土遺物	146
第94図	第64号住居跡・カマド	103	第130図	第85号住居跡	147
第95図	第64号住居跡出土遺物	104	第131図	第86号住居跡・カマド	148
第96図	第65号住居跡	105	第132図	第86号住居跡出土遺物	149
第97図	第65号住居跡カマド・出土遺物	106	第133図	第87号住居跡・出土遺物	149
第98図	第66号住居跡	108	第134図	第88号住居跡出土遺物	150
第99図	第67・68号住居跡・出土遺物	109	第135図	第88号住居跡	151
第100図	第69号住居跡	111	第136図	第88号住居跡・カマド	152
第101図	第69号住居跡・カマド	113	第137図	第89号住居跡・カマド	154
第102図	第69号住居跡出土遺物(1)	114	第138図	第89号住居跡出土遺物	155
第103図	第69号住居跡出土遺物(2)	115	第139図	第90号住居跡・出土遺物	156
第104図	第70号住居跡・カマド	117	第140図	第91号住居跡	157
第105図	第71号住居跡・カマド	118	第141図	第91号住居跡カマド	158
第106図	第71号住居跡出土遺物	119	第142図	第91号住居跡出土遺物	159

第143図	第92号住居跡	160	第180図	第133号住居跡出土遺物	202
第144図	第93号住居跡	161	第181図	土坑(1)	204
第145図	第93号住居跡出土遺物(1)	163	第182図	土坑出土遺物(1)	205
第146図	第93号住居跡出土遺物(2)	164	第183図	土坑(2)	207
第147図	第94号住居跡	165	第184図	土坑(3)	208
第148図	第95号住居跡	165	第185図	土坑出土遺物(2)	209
第149図	第95号住居跡出土遺物	166	第186図	土坑(4)	211
第150図	第96号住居跡・出土遺物	168	第187図	土坑出土遺物(3)	212
第151図	第97・98号住居跡	169	第188図	土坑(5)	214
第152図	第99号住居跡	170	第189図	土坑(6)	215
第153図	第99号住居跡カマド	171	第190図	土坑出土遺物(4)	216
第154図	第99号住居跡出土遺物	172	第191図	土坑(7)	217
第155図	第100号住居跡	173	第192図	第1号性格不明遺構・出土遺物	219
第156図	第100号住居跡カマド・出土遺物	174	第193図	第2・3号性格不明遺構	220
第157図	第101号住居跡	176	第194図	第4号性格不明遺構・出土遺物	221
第158図	第102号住居跡	177	第195図	第5・6号性格不明遺構	222
第159図	第103号住居跡カマド・出土遺物	178	第196図	第7号性格不明遺構・出土遺物	223
第160図	第104号住居跡・カマド	179	第197図	第8号性格不明遺構	224
第161図	第104号住居跡出土遺物	180	第198図	第9号性格不明遺構	224
第162図	第111号住居跡・出土遺物	181	第199図	第10号性格不明遺構・出土遺物(1)	225
第163図	第112号住居跡・カマド	182	第200図	第10号性格不明遺構出土遺物(2)	226
第164図	第112号住居跡出土遺物	184	第201図	第10号A性格不明遺構	227
第165図	第113号住居跡・出土遺物	185	第202図	第1号窯跡	228
第166図	第114号住居跡・出土遺物	186	第203図	第1号窯跡出土遺物	229
第167図	第115号住居跡	187	第204図	第1号鍛冶跡	230
第168図	第115号住居跡出土遺物	188	第205図	第1号精錬跡	231
第169図	第116号住居跡・出土遺物	190	第206図	ピット(1)	232
第170図	第117・136号住居跡	191	第207図	ピット(2)	233
第171図	第117号住居跡出土遺物	192	第208図	ピット出土遺物	235
第172図	第118号住居跡・出土遺物	193	第209図	グリッド・表探遺物	238
第173図	第125号住居跡・出土遺物	195	第210図	K-11グリッド出土古銭	239
第174図	第127号住居跡	196	第211図	古墳時代後期の土器	241
第175図	第128号住居跡・出土遺物(1)	197			
第176図	第128号住居跡出土遺物(2)	198			
第177図	第129号住居跡・出土遺物	199			
第178図	第132号住居跡・出土遺物	200			
第179図	第133号住居跡・カマド	201			

図版目次

- 図版 1 如意遺跡調査区航空写真
如意遺跡調査区航空写真
- 図版 2 第1号住居跡 第1号住居跡カマド
第2号住居跡 第2号住居跡カマド
第3号住居跡 第4号住居跡
第5号住居跡 第5号住居跡カマド
- 図版 3 第5号住居跡貯蔵穴 第6号住居跡
第6号住居跡カマドA・B
第7号住居跡 第7号住居跡カマド
第8号住居跡 第8号住居跡カマド
- 図版 4 第9号住居跡 第10号住居跡
第10号住居跡カマド 第11号住居跡
第12号住居跡 第12号住居跡カマド
第13号住居跡カマド
第14号住居跡遺物出土状況
- 図版 5 第14号住居跡カマド遺物出土状況
第14号住居跡 第14号住居跡カマド
第15号住居跡 第15号住居跡カマド
第16号住居跡 第16号住居跡カマド
第16号住居跡貯蔵穴
- 図版 6 第17号住居跡 第17号住居跡カマド
第17号住居跡貯蔵穴
第18号住居跡遺物出土状況
第18号住居跡
第18号住居跡カマドA・B
第19号住居跡
- 図版 7 第19号住居跡カマド
第20号住居跡カマド遺物出土状況
第20号住居跡カマド
第21号住居跡 第21号住居跡貯蔵穴
第21号住居跡カマド 第22号住居跡
第23・24号住居跡
- 図版 8 第23・24号住居跡カマド
第25号住居跡 第25号住居跡カマドA
第26・27号住居跡 第28号住居跡
- 第28号住居跡カマド 第29号住居跡
第30号住居跡
- 図版 9 第30号住居跡カマド
第31号住居跡 第31号住居跡カマド
第32号住居跡 第32号住居跡カマド
第33号住居跡遺物出土状況
第33号住居跡カマド
第33号住居跡貯蔵穴
- 図版 10 第34号住居跡 第34号住居跡カマド
第35・37号住居跡 第36号住居跡
第36号住居跡カマド 第40号住居跡
第40号住居跡カマド 第42号住居跡
- 図版 11 第42号住居跡カマド
第42号住居跡貯蔵穴 第43号住居跡
第45号住居跡
第45号住居跡カマド遺物出土状況
第45号住居跡カマド
第48号住居跡カマド
- 図版 12 第50号住居跡 第50号住居跡カマド
第51号住居跡 第51号住居跡カマド
第25・54号住居跡 第54・55号住居跡
第56号住居跡 第58号住居跡
- 図版 13 第59号住居跡 第60号住居跡
第60号住居跡カマド
第61号住居跡 第61号住居跡カマド
第62号住居跡 第64号住居跡
第64号住居跡カマド
- 図版 14 第65号住居跡 第66号住居跡
第66号住居跡カマド
第69号住居跡遺物出土状況
第69号住居跡カマド遺物出土状況
第69号住居跡
- 図版 15 第69号住居跡カマド
第70号住居跡・第7号性格不明遺構
第70号住居跡 第71号住居跡

	第71号住居跡カマド 第72号住居跡 第72号住居跡カマド遺物出土状況 第74号住居跡		第99号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第99号住居跡カマド 第100号住居跡 第101号住居跡カマド 第102号住居跡
図版16	第74号住居跡カマド 第75・76号住居跡 第75号住居跡カマド 第76号住居跡遺物出土状況 第76号住居跡貯蔵穴 第77号住居跡カマド遺物出土状況 第77号住居跡カマド 第78号住居跡遺物出土状況	図版22	第103号住居跡カマド遺物出土状況 第115号住居跡 第115号住居跡カマド遺物出土状況 第117号住居跡 第118号住居跡 第125号住居跡 第125号住居跡カマド 第128号住居跡
図版17	第78号住居跡カマド周辺遺物出土状況 第78号住居跡カマド 第79号住居跡 第79号住居跡カマド 第80号住居跡遺物出土状況 第80号住居跡カマド遺物出土状況 第80号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 (1) 第80号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 (2)	図版23	第129号住居跡 第1号土坑遺物出土状況 第1号土坑 第3号土坑遺物出土状況 第3号土坑 第4号土坑遺物出土状況 第4号土坑 第5号土坑
図版18	第80号住居跡 第83号住居跡 第85号住居跡遺物出土状況 第85号住居跡カマド遺物出土状況 第86号住居跡 第86号住居跡遺物出土状況 第88号住居跡 第89号住居跡	図版24	第6号土坑 第7号土坑 第8号土坑 第9号土坑遺物出土状況 第9号土坑 第10号土坑 第11・12・13号土坑 第14号土坑
図版19	第89号住居跡カマド 同遺物出土状況 第90号住居跡 第91号住居跡遺物出土状況 第91号住居跡カマド遺物出土状況 第91号住居跡 第91号住居跡カマド 第93号住居跡遺物出土状況	図版25	第15号土坑遺物出土状況 第22号土坑遺物出土状況 第27号土坑上面遺物出土状況 第27号土坑遺物出土状況 第30・31・32・33号土坑 第44号土坑遺物出土状況 第1号性格不明遺構 第2号性格不明遺構
図版20	第93号住居跡遺物出土状況 第93号住居跡カマド 第93号住居跡貯蔵穴 第94号住居跡 第95号住居跡遺物出土状況 第96号住居跡 第97号住居跡 第97号住居跡カマド	図版26	第2号性格不明遺構遺物出土状況 第4号性格不明遺構 第8号性格不明遺構 第10号性格不明遺構遺物出土状況 第1号窯跡 (1) 第1号窯跡 (2) 第1号窯跡遺物出土状況 (1) 第1号窯跡遺物出土状況 (2)
図版21	第98号住居跡 第99号住居跡 第99号住居跡遺物出土状況	図版27	第1号窯跡遺物出土状況 (3) 第1号窯跡 第1号窯跡掘り方

	第1号鍛冶跡遺物出土状況		第75・76号住居跡出土遺物
	第1号鍛冶跡掘り方		第77号住居跡出土遺物
	M-9グリッドピット2遺物出土状況		第78号住居跡出土遺物
	M-12グリッドピット1遺物出土状況	図版34	第78号住居跡出土遺物
	O-6グリッドピット1・2		第78・79号住居跡出土遺物
図版28	第2号住居跡出土遺物		第80号住居跡出土遺物
	第3号住居跡出土遺物	図版35	第80号住居跡出土遺物
	第5号住居跡出土遺物		第83号住居跡出土遺物
	第6号住居跡出土遺物		第85号住居跡出土遺物
	第7号住居跡出土遺物		第87号住居跡出土遺物
	第8号住居跡出土遺物		第88号住居跡出土遺物
	第9号住居跡出土遺物		第90号住居跡出土遺物
図版29	第14号住居跡出土遺物		第91号住居跡出土遺物
	第15号住居跡出土遺物	図版36	第93号住居跡出土遺物
	第17号住居跡出土遺物		第95号住居跡出土遺物
	第18号住居跡出土遺物		第96号住居跡出土遺物
図版30	第21号住居跡出土遺物	図版37	第99号住居跡出土遺物
	第22号住居跡出土遺物		第103号住居跡出土遺物
	第23号住居跡出土遺物		第113号住居跡出土遺物
	第25号住居跡出土遺物		第114号住居跡出土遺物
	第28号住居跡出土遺物		第115号住居跡出土遺物
	第30号住居跡出土遺物	図版38	第115号住居跡出土遺物
	第34号住居跡出土遺物		第117号住居跡出土遺物
	第36号住居跡出土遺物		第125号住居跡出土遺物
図版31	第37号住居跡出土遺物		第128号住居跡出土遺物
	第41号住居跡出土遺物	図版39	第129号住居跡出土遺物
	第42号住居跡出土遺物		第132号住居跡出土遺物
	第52号住居跡出土遺物		第133号住居跡出土遺物
	第54号住居跡出土遺物		第1号土坑出土遺物
	第61号住居跡出土遺物		第3号土坑出土遺物
図版32	第61号住居跡出土遺物	図版40	第14A号土坑出土遺物
	第64号住居跡出土遺物		第15号土坑出土遺物
	第67号住居跡出土遺物		第16号土坑出土遺物
	第69号住居跡出土遺物		第22号土坑出土遺物
	第71号住居跡出土遺物		第27号土坑出土遺物
図版33	第71号住居跡出土遺物		第39号土坑出土遺物
	第72号住居跡出土遺物		第40号土坑出土遺物

- 第4号性格不明遺構
- 図版41 第4号性格不明遺構出土遺物
第10号性格不明遺構出土遺物
第1号鍛冶跡出土遺物
K-10グリッドP3出土遺物
L-11グリッドP1出土遺物
L-11グリッドP2出土遺物
L-13グリッドP1出土遺物
- 図版42 O-6グリッドP1出土遺物
グリッドピット出土白玉
N-13グリッド出土遺物
O-5グリッド出土遺物
第6号住居跡出土遺物
第40号住居跡出土遺物
第42号住居跡出土遺物
- 図版43 第42号住居跡出土遺物
第60号住居跡出土遺物
第80号住居跡出土遺物
- 図版44 第80号住居跡出土遺物
第89号住居跡出土遺物
第91号住居跡出土遺物
第93号住居跡出土遺物
- 図版45 第95号住居跡出土遺物
第99号住居跡出土遺物
第113号住居跡出土遺物
- 図版46 第115号住居跡出土遺物
第116号住居跡出土遺物
第125号住居跡出土遺物
- 図版47 第128号住居跡出土遺物
第3号土坑出土遺物
第22号土坑出土遺物
第27号土坑出土遺物
- 図版48 第27号土坑出土遺物
第2号性格不明遺構出土遺物
第10号性格不明遺構出土遺物
第1号窯跡出土遺物
第42号住居跡出土遺物
- 図版49 第45号住居跡出土遺物
- 図版50 第78号住居跡出土遺物
- 図版51 第89号住居跡出土遺物
第93号住居跡出土遺物
- 図版52 第93号住居跡出土遺物
- 図版53 第93号住居跡出土遺物
第99号住居跡出土遺物
第103号住居跡出土遺物
- 図版54 第114号住居跡出土遺物
第115号住居跡出土遺物
第128号住居跡出土遺物
- 図版55 第128号住居跡出土遺物
第133号住居跡出土遺物
第44号土坑出土遺物
- 図版56 第10号性格不明遺構出土遺物
第1号窯跡出土遺物
M-9グリッドP2出土遺物
- 図版57 第9号住居跡出土遺物
第18号住居跡出土遺物
第28号住居跡出土遺物
第29号住居跡出土遺物
第33号住居跡出土遺物
第45号住居跡出土遺物
第49号住居跡出土遺物
第78・79号住居跡出土遺物
第89号住居跡出土遺物
第112号住居跡出土遺物
第115号住居跡出土遺物
第128号住居跡出土遺物
- 図版58 鉄製品
- 図版59 砥石 石製模造品 金属製品

I 発掘調査の概要

1. 調査に至る経過

県北部に広がる荒川中流域の大里地区は首都圏近郊に位置し、有望な食料生産基地として大きな発展が期待されている。しかし、荒川の河床が低下したため洪水の危険性が増大し、また、水質悪化や湧水の枯渇などの問題が生じてきた。こうした事態を受けて農林水産省が主体となり、大里地区において六堰頭首工などの基幹土地改良施設と地区内水利施設の機能回復などの「国営総合農地防災事業」が計画された。これに呼応して埼玉県と川本町でも、「付帯県営農地防災事業」により支線水路等の整備を行うこととなった。

平成9年2月21日付け9埼玉県第72号で関東農政局埼玉東部土地改良事務所長より、六堰頭首工建設工事等用地内における埋蔵文化財の有無及び取扱についての照会を受けた。文化財保護課では、平成9年2月27・28日に試掘調査を行い、奈良・平安時代の住居跡を確認して平成9年3月5日付け教文1625号で以下のような回答をした。

1 埋蔵文化財の所在

事業地内には、次の埋蔵文化財包蔵地が存在します。

名称	種別	時代	所在地
如意	集落跡	縄文・奈良・平安	大里郡川本町如意地内
川端	集落跡	奈良・平安	大里郡川本町川端地内

2 取扱いについて

上記の埋蔵文化財は現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状変更する場合には、事前に文化財保護法第57条の3の規定による発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してくだ

さい。

なお、発掘調査の実施については、当課と別途協議願います。

これを受けて文化財保護課と関係部局・川本町との間で事前協議がなされたが、計画変更が不可能であるため、工事区について記録保存の措置を講ずることとした。

また、六堰頭首工につながる農免道路部分についても試掘調査がなされ、新たに如意南遺跡が新規登録された。道路に施設される歩道については川本町の事業であったが、これを分離して調査することが不可能であるため、一体として発掘調査することになり、実施機関として（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団があたることとなった。

如意遺跡等にかかる文化財保護法第57条3の通知が関東農政局埼玉東部土地改良事務所長から提出され平成9年9月1日付け教文第3-373号で取受した。一方、文化財保護法第57条1にかかる調査届が（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出されて、発掘調査が平成9年10月1日から開始され、平成10年6月15日に終了した。

なお、発掘調査届に対する指示通知番号は、次のとおりである。

如意（1次）

平成9年12月5日付け教文第2-147号

（文化財保護課）

2. 発掘調査・報告書作成の経過

発掘調査

大里農地防災事業六塚頭首工改築工事に伴う如意遺跡の発掘調査は、平成9年10月から平成10年6月、平成10年10月から12月、平成11年10月から平成12年11月まで実施した。本書で報告対象となるのは平成9年度と10年度の一部の調査部分である。

平成9年10月より、現場事務所設置などの諸準備を行い、11月より本格調査に入った。発掘器材の搬入と調査区域・発掘残土置き場に囲柵を設置後、重機による表土掘削を行い、表土掘削終了範囲より順次遺構確認作業をした。表土掘削終了時点で基準点測量を実施し、10m方眼の杭打ち作業を行った。

遺構確認の結果、竪穴住居跡、土坑、ピットなどが検出された。西端部では土坑・ピットが数基のみで遺構がまばらで東に行くにしたがって竪穴住居跡が濃密に分布するようになり、また、荒川寄りも遺構がややまばらになっている状況であった。

調査は、調査区西端より東に順次進んで行くような方法で始めた。

12月以降3月まで、遺構調査と遺構の埋没状況土層断面図の実測、遺物出土状況の写真撮影・実測を行った。遺物の取り上げ後、遺構の完掘写真撮影をし、その後、10m方眼ごとに遺構平面図の実測及び標高計測を行った。

3月下旬に、調査区の全景撮影と空中写真撮影を実施して調査を終了した。

竪穴住居跡は、平安時代の住居跡の下に古墳時代後期の住居跡が検出されることから、平成10年度に一部

持ち越し、継続調査となった。

平成10年4月から継続調査を行い、6月中旬に全景撮影・空中写真撮影を実施した。調査終了後、調査区の埋め戻しと囲柵の撤去を行い、調査は完了した。

整理・報告書作成

如意遺跡の整理・報告書作成作業は、平成12年4月10日から平成13年3月23日にわたって実施した。

4月から出土遺物の水洗・注記、接合・復元作業を行い、これと並行して遺構実測図・写真記録等図面整理を行った。

6月初旬には遺構実測図第二原図作成と写真記録等図面整理は終了し、遺物実測を始めた。大型遺物は3スペースを使用して実測を行った。

8月から遺構第二原図を縮小し、版下のためのレイアウトを始めた。

9月は版下用のレイアウトを引き続き行い、遺構・遺物のトレースを開始した。遺物の接合は完了し、写真撮影のための復元作業に着手した。また、遺物の実測も終了した。

10月より原稿執筆を始めた。遺物の写真撮影用の復元が終了した。

11月より版下作成を行い、下旬には遺物の写真撮影を行い、原稿執筆・図版組みを12月末まで実施した。

これらの作業終了後、平成13年1月には報告書作成のため、割り付けを行った。

平成13年1月下旬より印刷に入り、3回の校正を経て、3月23日に報告書を刊行した

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査 (平成9・10年度)

理 事 長 荒 井 桂
副 理 事 長 富 田 真 也 (H9)
飯 塚 誠 一 郎 (H10)
専 務 理 事 塩 野 博 (H9)
常 務 理 事 兼 管 理 部 長 稲 葉 文 夫 (H9)
鈴 木 進 (H10)

管理部

庶 務 課 長 依 田 透 (H9)
金 子 隆 (H10)
主 査 西 沢 信 行 (H9)
田 中 裕 二 (H10)
主 任 長 滝 美 智 子
主 任 腰 塚 雄 二
専 門 調 査 員 兼 経 理 課 長 関 野 栄 一
主 任 江 田 和 美
主 任 福 田 昭 美
主 任 菊 池 久

調査部

理 事 兼 調 査 部 長 梅 沢 太 久 夫 (H9)
調 査 部 長 谷 井 彪 (H10)
調 査 副 部 長 今 泉 泰 之 (H9)
水 村 孝 行 (H10)
調 査 第 四 課 長 鈴 木 秀 雄 (H9)
調 査 第 一 課 長 井 上 尚 明 (H10)
主 査 利 根 川 章 彦 (H9)
主 任 調 査 員 山 本 禎 (H9)
統 括 調 査 員 山 本 禎 (H10)
主 任 調 査 員 瀧 瀬 芳 之 (H9)
主 任 調 査 員 栗 岡 潤 (H10)

(2) 整理作業 (平成12年度)

理 事 長 中 野 健 一
副 理 事 長 飯 塚 誠 一 郎
常 務 理 事 兼 管 理 部 長 広 木 卓

管理部

管 理 部 副 部 長 関 野 栄 一
主 席 (庶務担当) 阿 部 正 浩
主 席 (施設担当) 野 中 廣 幸
主 任 菊 池 久
主 席 (経理担当) 江 田 和 美
主 任 長 滝 美 智 子
主 任 福 田 昭 美
主 任 腰 塚 雄 二

調査部

調 査 部 長 高 橋 一 夫
資 料 副 部 長 鈴 木 敏 昭
主 席 調 査 員 (資 料 整 理 担 当) 磯 崎 一
統 括 調 査 員 山 本 禎

II 遺跡の立地と環境

如意遺跡は、大里郡川本町大字島山字如意に所在し、町のほぼ中央を東流する荒川右岸の河岸段丘上の標高64mほどに立地する。

遺跡は、荒川が寄居町内を東流してきた流れが北東方向に流れを変え、再び東流する変換点にあり西側と北側が荒川に面している。

周辺の地形は、荒川による浸食作用と堆積作用によって形成された河岸段丘であり、最も最高位にあるものは南岸では江南面（江南台地）、北岸では櫛引面（櫛引台地）で、遺跡は江南面より一段低い寄居面に位置している。

六堰頭首工建設以前の明治18年測量の迅速図では、遺跡北側は荒川との間に寄居面よりも一段低い瀬山面とみられる低地が認められる。また、戦後の圃場整備により現在は平坦であるが、本来は幾つかの浅い谷が認められ、起伏に富んだ地形であったことは、これまでの如意遺跡・如意南遺跡の発掘調査でも確認されたことである。

如意南遺跡は、如意遺跡の南に隣接し、如意遺跡と

同様に古墳時代後期から平安時代にかけての集落で、住居跡は42軒、掘立柱建物跡1棟が確認され、土鍾・紡錘車のほか帯金具等が出土した。古墳時代後期から奈良・平安時代の如意遺跡の一部も調査され住居跡17軒を確認し、土鍾・石製模造品等が出土した。

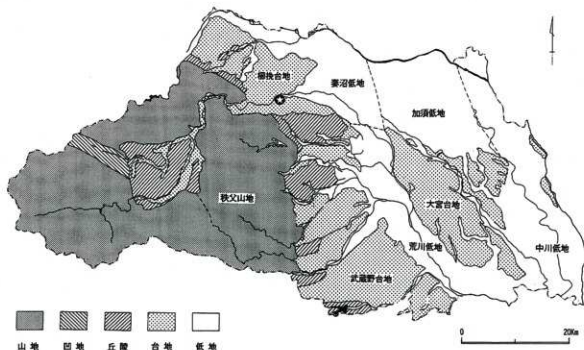
荒川沿いで東に隣接する川端遺跡は、古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落で、3次の調査が行われ、住居跡27軒、掘立柱建物跡1棟が確認され、紡錘車・青銅製品・耳環・緑釉陶器・灰釉陶器等が出土している。

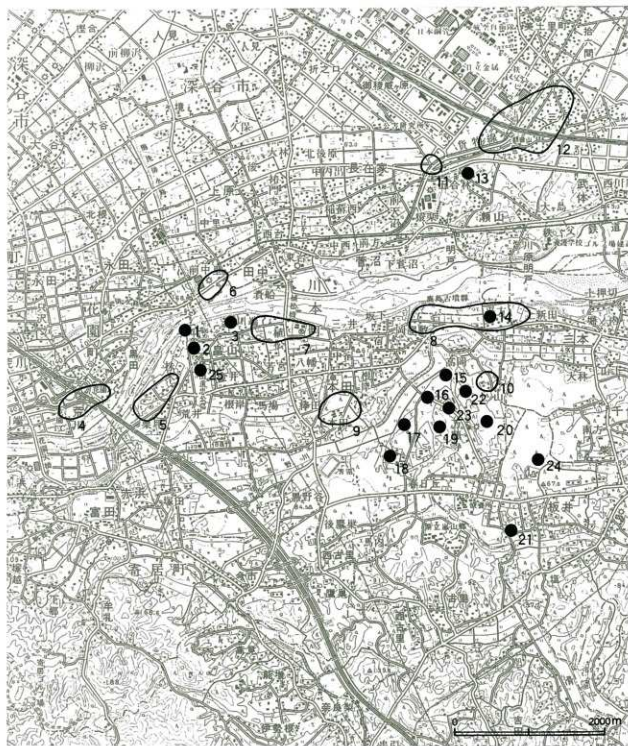
江南台地では、吉野川右岸の低丘陵上に古墳時代後期の住居跡7軒の小規模な集落の権現堂遺跡がある程度で、大規模な集落は、荒川沿いに集中している。

古墳時代後期の古墳は、荒川の両岸に群集墳が造られている。左岸には小前田古墳群・黒田古墳群・見目古墳群が、右岸には箱崎古墳群・塚原古墳群・県指定史跡「鹿島古墳群」がある。

小前田古墳群の多くは円墳であるが、帆立貝式の前方後円墳、箱式石棺などが調査され、主体部は河原石

第1図 埼玉県の地形





- | | | | | | | |
|-----------------|----------|-----------|-------------|-----------|---------|---------|
| 1 如意遺跡 | 2 如意南遺跡 | 3 川端遺跡 | 4 黒田古墳群 | 5 箱崎古墳群 | 6 見目古墳群 | 7 塚原古墳群 |
| 8 鹿島古墳群 | 9 上大塚古墳群 | 10 清水山古墳群 | 11 長在家古墳群 | 12 三ヶ尻古墳群 | 13 大門遺跡 | |
| 14 鹿島遺跡・鹿島平方裏遺跡 | 15 竹ノ花遺跡 | 16 白草遺跡 | 17 円阿弥遺跡 | 18 権現堂遺跡 | | |
| 19 四反歩遺跡 | 20 百済木遺跡 | 21 岩比田遺跡 | 22 荷鞍ヶ谷戸瓦窯跡 | 23 諦光寺廃寺跡 | | |
| 24 寺内廃寺 | 25 畠山館跡 | | | | | |

積みみの横穴式石室で、短冊型・胴張型の石室である。遺物は、銅鋼・鉄鍔の他、埴輪が検出され、6世紀前半から7世紀後半に形成されたものと考えられている。

黒田古墳群は30基余の古墳が群集しており、3段ある段丘の最上段に分布している。前方後円墳1基とその他は円墳で、主体部は河原石積みみの横穴式石室で短冊型の狭長なものである。遺物は、副葬品が豊富で武器類・装身具・須恵器や馬具が出土した。埴輪を有し、円筒・朝顔形・人物・形象埴輪があることなどからも、6世紀後半から7世紀前半頃と考えられている。

見目古墳群は最上段の段丘に位置し、円墳2基が調査され、胴張りの横穴式石室が検出された。銅製八角稜鈴・刀装具等が副葬されていた。円墳2基以外の他の古墳からは円筒・形象・器財埴輪が多量に出土している。7世紀代の築造とされている。

荒川右岸の箱崎古墳群は6世紀前半から7世紀にかけて32基以上が築造され、全長32mの前方後円墳と大型円墳1基を含み、調査された古墳は径10mの円墳で、河原石積みみの胴張り型石室をもち、須恵器・玉類・埴輪が出土している。

塚原古墳群はかつて前方後円墳の蛤塚古墳を含む円墳数十基が知られていたが消滅し現存しない。

更に下流沿いの県指定史跡「鹿島古墳群」は80基以上の円墳からなる群集墳である。河原石積みみの胴張り石室を特徴とする、6世紀後半から7世紀代のものである。

奈良・平安時代の荒川右岸のこの地域は男衾郡にあたる。また、鹿島遺跡・鹿島平方遺跡と江南町新田裏遺跡までを含めて古墳時代後期から奈良・平安時代に

連続する集落が営まれている。鹿島遺跡は古墳群と中世墓の他、住居跡38軒が検出され、古墳時代後期が2軒、他の36軒が奈良・平安時代のもので、他に平安時代の掘立柱建物跡2棟が検出された。

鹿島平方裏遺跡では、住居跡24軒が確認され、帯金具・灰釉陶器等を出土した。

江南台地では、竹ノ花遺跡・白草遺跡・円阿弥遺跡・四反歩遺跡の集落や、8世紀前半の瓦が出土たとされる荷鞍ヶ谷戸瓦窯跡、小金銅仏が出土したとされる謫光寺廃寺がある。

竹ノ花遺跡・四反歩遺跡は小規模な集落で、竹ノ花遺跡では奈良・平安時代の住居跡8軒が検出され、1軒はカマドの補強材に瓦が用いられていた。四反歩遺跡では10軒が検出された。白草遺跡は、古墳時代前期と平安時代の住居跡が確認され、平安時代の集落は62軒を数える。円阿弥遺跡は小規模な集落であるが、古墳時代前期の住居跡7軒、奈良・平安時代の住居跡3軒が検出された。

また、百済木遺跡では、8世紀初頭に楯列により区画された竪穴住居跡と掘立柱建物跡で構成され大型建物群が2箇所確認された。出土遺物には、青銅製蛇尾・銅鈴・墨書土器などがあり、豪族の居宅と推定されている。

参考文献

- 磯崎 一 1992 『白草遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第118集
- 大里郡市文化財担当者会 1993 「大里地域の遺跡Ⅱ」 『埼玉考古』第30号 埼玉考古学会
- 小川成夫ほか 1958 「埼玉県大里郡花園村の考古学的調査」 『史苑』第18巻12号 立教大学史学会
- 金子直行ほか 1993 「四反歩遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第130集
- 川本町遺跡調査会 2000 『百済木』 発掘調査概要
- 栗岡 潤 2000 『如意ノ如意南』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第241集
- 埼玉県教育委員会 1994 『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』
- 塩野 博 1972 『鹿島古墳群』 埼玉県埋蔵文化財調査報告 第1集
- 塩野博・小久保徹 1975 『黒田古墳群』 花園村黒田古墳群調査会
- 塩野 博 1981 「見目古墳群とその遺物」 『埼玉考古』19号
- 瀧瀬芳之 1986 『小前田古墳群』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第58集
- 利根川卓彦 1991 『竹ノ花・下大塚・円阿弥遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第105集
- 増田逸朗 1963 「川本町箱崎古墳群の報告」 『第1回埼玉県遺跡発掘調査報告会要旨』
- 村松 篤 1989 『畠山館跡』第3・4次 川本町教育委員会
- 村松 篤 1991 『瀬山遺跡群発掘調査報告書』 川本町発掘調査報告書 第3集
- 村松 篤 1991 『鹿島遺跡発掘調査報告書』 川本町発掘調査報告書 第4集
- 村松 篤 1991 『川本春日丘工業団地関連遺跡群発掘調査報告書』 川本町発掘調査報告書 第5集
- 村松 篤 1992 『箱崎古墳群第3号墳・洞ノ上遺跡発掘調査報告書』 川本町発掘調査報告書 第6集
- 村松 篤 1992 『川端遺跡発掘調査報告書』第2次 川本町遺跡発掘調査報告書 第1集
- 村松 篤 1993 『川端遺跡第3次調査発掘報告書』 川本町発掘調査報告書 第7集
- 村松 篤 1994 『荷鞍ヶ谷戸遺跡発掘調査報告書』 川本町発掘調査報告書 第8集
- 村松 篤 1995 『鹿島平方裏遺跡発掘調査報告書』 川本町遺跡調査会報告書 第3集
- 村松 篤 1999 「9 川本町百済木遺跡の調査」 『第32回遺跡発表報告会発表要旨』 埼玉考古学会
- 村松 篤 1999 『畠山館跡』第5次 川本町遺跡調査会報告書 第4集

III 遺跡の概要

如意遺跡は、荒川右岸の河岸段丘上に位置し、現在は昭和初期に建設された六塚頭首工により護岸された急峻な崖上にあり荒川に面している。周辺は圃場整備により平坦となっているが、埋没谷が数箇所確認されており、旧地形は起伏に富んだ地形であることが明らかになっている。

これまで検出された遺構は、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡が560軒ほど検出されている。また、南に隣接する如意南遺跡も同様の遺跡であり、調査により一体の遺跡であることが確認された。

如意遺跡における調査のうち、本書で扱う範囲は調査区内西側の6,000㎡である。今回報告する検出された遺構は、古墳時代後期の竪穴住居跡69軒、土坑13基、性格不明遺構5基、奈良時代の竪穴住居跡14軒、平安時代の竪穴住居跡27軒、土坑3基、性格不明遺構1基、時期不詳のものは竪穴住居跡8軒、土坑28基、性格不明遺構5基とピットなどである。なお、掘立柱建物跡は次の報告書に掲載する。

調査区の西端は南側に古墳時代後期の土坑1基・ピット1基と時期不詳のピット5基が検出されたのみで、表土は非常に浅く北側の荒川に向い緩やかに傾斜していた。土坑の坑底は礫層となっていた。

西側は概ね表土は浅く、西端と同様に荒川寄りには古墳時代後期の土坑、時期不詳のピットや性格不明遺構が点在するような分布状況である。この範囲は表土が流出し、砂地に近い地山であった。荒川寄りの北半においては土坑・ピットの坑底は地山下層の黒色砂層に達しているものがあつた。

竪穴住居跡は西半部では調査区南側に集中しているが、東漸するにしたがって荒川寄りにも竪穴住居跡が検出された。

遺構確認面の地形は、全体的に荒川へ向って緩やかに傾斜して表土も浅い。それに伴い住居跡の覆土の深さもさほどない。

調査区東半は北の荒川から緩やかに登り、中ほどから南へ向って傾斜し、南端で深いところは表土が1m以上あり、住居跡の覆土も深くなるという特徴がある。また、遺構の重複も多くなる。

現在の周辺地形は圃場整備で平坦になっているが、旧地形は如意南遺跡の調査でも明らかなように埋没谷が数箇所確認されていることから、調査区の南側の表土は厚くなっており、埋没谷のような低くなった箇所があると考えられた。

調査区内でも、地点によって表土が非常に浅いところ、また深いところがある。また、地山下層が礫層・砂層・黄褐色シルト層と異なっており、荒川の氾濫などの影響を受け、複雑な地形となっている。

竪穴住居跡の集中は大きく3ブロックに分けることができ、いずれのブロックも、古墳時代後期の住居跡が多い。中央のブロックは奈良・平安時代の住居跡が他のブロックに比べ比較的多く、最東端のブロックは古墳時代後期の住居跡が非常に多くなっている。

以上のことから東に古墳時代後期の住居跡、新しくなるにつれ集落がやや西へ主体が移動していったと考えられる。

また、注目すべき遺構として平安時代の須恵器窯跡が検出されたことである。立地は平坦部に位置し、構造は楕円形の半地下式で、灰原は確認されなかった。炉壁は還元しているが、焼成したものは甕が主体で、甕の色調は灰黄色・褐灰色で非常に焼きが悪い状態である。

第3図 調査区周辺の地形図



今年度報告範囲

 調査範囲

 既報告範囲

第4図 調査区全測図(1)



今年度報告遺構 未報告遺構



第5図 調査区全測図(2)



□ 今年度報告遺構

□ 未報告遺構



IV 遺構と遺物

1. 住居跡

今回、報告対象となるのは、第1号住居跡から第104号住居跡、第111号住居跡から第118号住居跡、第125号住居跡、第127号住居跡から第129号住居跡、第132号住居跡・第133号住居跡・第136号住居跡である。なお、第63号住居跡は性格不明遺構の項で取り上げるため、第63号住居跡は欠番とする。

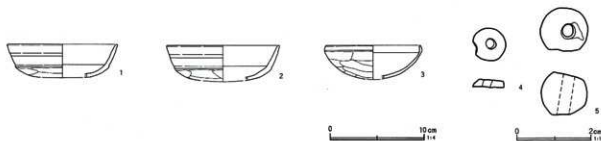
第1号住居跡 (第6・7図)

Q-3・4グリッドに位置する。西側が現道の下に入り込んでおり、第26号住居跡を切り、第44号住居跡に切られている。平面は軸長3.36m以上×4.68mで、深さは28cm程である。壁溝は、検出範囲ではほぼ全周し、幅11~21cm、深さ1~3cmを測る。柱穴は確認できなかった。主軸方位は、N-49°-Eを指す。

カマドは北東壁中央、やや北西寄りに設けられている。燃焼部は112cm×42cmで焚口は楕円形状の窪みとなっている。煙道部は57cm程確認できた。

遺物は、土師器坏と白玉・土玉が出土した。白玉(4)は、径8.6~9.0mm、厚さ2.6mm、孔径2.9mm、重さ0.24gである。土玉(5)は、径12.8mm、高さ10.9~9.8mm、孔径3.3~3.7mm、重さ1.68gである。

第6図 第1号住居跡出土遺物



第1号住居跡出土遺物観察表 (第6図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(11.6)	3.5		B D G I	普通	にぶい梅	10	No3	
2	坏	(11.9)	3.7		B D H J	普通	にぶい橙	10	A区	
3	坏	(10.0)	3.6		E J	不良	にぶい橙	20	B区	床

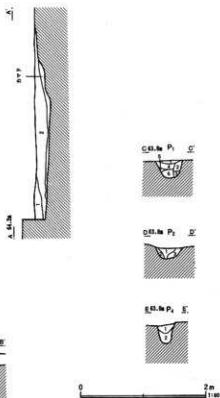
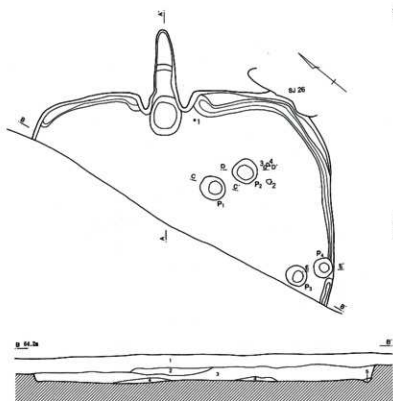
第2号住居跡 (第8・9図)

Q-4グリッドに位置する。第26・27・28号住居跡を切っている。平面は軸長4.22m×3.38mの長方形で、深さは50cm程を測る。主軸方位は、N-48.5°-Eを指す。

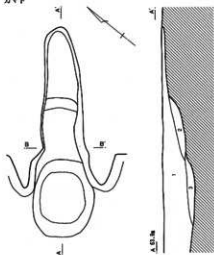
カマドは、北東壁のやや南東寄りに設けられている。燃焼部は170cm×60cm、床面と同じ高さである。

遺物は須恵器坏、酸化焰焼成の高台付碗・土師器甕が床直上から出土している。覆土中より小刀、刀装具の足金物の他、土錘が16点出土している。6の小刀はほぼ完形で、重さは50.24g、7の刀装具の銅製足金物は3割程度の遺存で、重さ3.04gである。

第7図 第1号住居跡・カマド



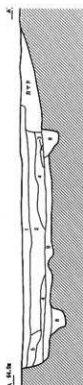
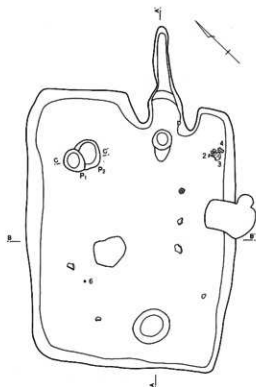
カマド



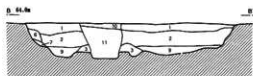
- 1 におい黄褐色(107B4/3) シルト質 におい褐色ブロック・焼土・炭ブロック少
2 におい黄褐色(107B4/3) 焼土ブロック・焼土少・炭灰層か
3 黒褐色 (107B2/2) 焼土・焼土・炭化物少

- 1 耕作土
2 黒褐色 (107B3/1) シルト質 におい褐色ブロック・焼土・炭ブロック少
3 におい黄褐色(107B4/3) シルト質 におい褐色ブロック・焼土・炭ブロック少
4 におい褐色 (107B5/3) シルト質
5 黒褐色 (107B2/1) シルト質 におい褐色土少
- P1
1 黒褐色 (107B3/1) 焼土・炭少
2 黒褐色 (107B3/1) におい黄褐色ブロック少
3 黒褐色 (107B3/1) 焼土ブロック
4 暗褐色 (107B2/3) におい黄褐色土多、炭・焼土ブロック層か
6 暗褐色 (107B2/3) におい黄褐色ブロック多、焼土ブロック層か
- P2
1 黒褐色 (107B3/1) におい黄褐色土少
2 黒褐色 (107B2/2) におい黄褐色土・焼土層か
3 黒褐色 (107B3/1) におい黄褐色土・焼土少
- P4
1 黒褐色 (107B2/2) におい黄褐色土少、炭化物・焼土層か
2 黒褐色 (107B2/2) におい黄褐色土層か

第8図 第2号住居跡・カマド

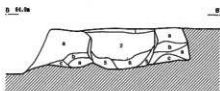
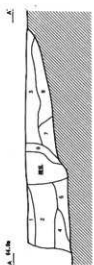
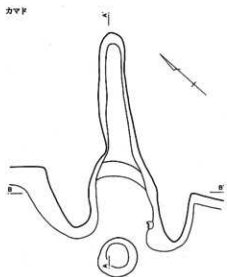


- 1 褐色シルト (107B/4) 白色炭酸粒子極多
- 2 褐色シルト (107B/4) 白色炭酸粒子・炭化物粒子若干
- 3 褐色シルト (107B/4)
- 4 暗褐色シルト(107B/3) 灰褐色・黄褐色シルト
- 5 褐色シルト (107B/4/3) 灰褐色シルト
- 6 褐色シルト (107B/4) 灰色シルト若干
- 7 褐色シルト (107B/4) 灰色・黄褐色シルト
- 8 黒褐色 (107B/3/1) 炭化物・焼土・地山上土
- 9 におい・黄褐色(107B/3) 地山上主体、炭化物・焼土部分的に少量
- Q-4 グラッド ビット
- 10 におい・褐色 (107B/5) 白色炭酸粒子極多
- 11 褐色 (107B/3) 白色炭酸粒子極多・灰色シルト若干



0 2m
1:10

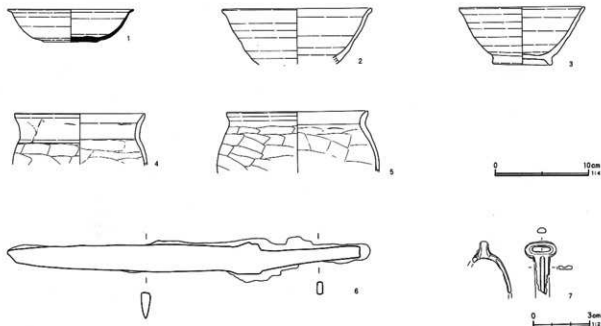
- P1・2
- 1 褐色 (107B/3) 地山上ブロック多、炭化物・焼土僅か
 - 2 灰褐色 (107B/2) 地山上ブロック多、炭化物・焼土多
 - 3 灰褐色 (107B/2) 地山上ブロック多
 - 4 におい・褐色 (107B/3) 地山上ブロック多、炭化物・焼土・白色砂ブロック状少
 - 5 灰褐色 (107B/2) 地山上ブロック多
 - 6 におい・褐色 (107B/3) 地山上ブロック多、白色砂ブロック状少



- 1 褐色シルト (107B/4) 白色炭酸粒子極多
- 2 褐色シルト (107B/4) 白色炭酸粒子・炭化物粒子
- 3 褐色シルト (107B/4) 白色炭酸粒子・炭化物粒子若干、焼土ブロック多
- 4 暗褐色シルト(107B/3) 灰褐色・黄褐色シルト
- 5 黒褐色 (107B/2) 焼土・炭化物少
- 6 黒褐色 (107B/2) 焼土・炭化物少
- 7 灰黄褐色 (107B/2) 焼土多、地山上ブロック・灰少
- 8 黒褐色 (107B/2) 焼土ブロック極多、焼土・地山ブロック・炭僅か
- 9 におい・黄褐色(107B/3) 地山上ブロック状極多
- a におい・黄褐色(107B/3) 地山上土の混合土、灰僅かシルト質
- b 暗褐色 (107B/2) 焼土・地山上少、灰多
- c におい・黄褐色(107B/4) 地山上主体、焼土ブロック・炭僅か

被埋層 (焼土)

第9図 第2号住居跡出土遺物



第2号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.5)	3.5	5.6	B J L	良	灰	40		底部右回転糸切り、糸引き抜き痕有
2	碗	(16.0)			B J L	不良	オリーブ黒	25	No15・B区	床 内外面黒色
3	高台付碗	13.1	6.2	6.4	A B J L	普通	にぶい橙	75	No12・カマド	床 酸化焙焼成
4	壺	(13.9)			A D E J L	良	にぶい橙	25	No2・7	床
5	壺	(15.0)			B J K	普通	にぶい赤褐	20	カマド	

第2号住居跡出土土錐観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(1.86)	1.29	0.50	(2.03)	B a	橙	20	C区
2	(2.69)	1.18	0.40	(3.63)	D a	灰黄橙		D区
3	(2.81)	1.96	0.45	(2.86)	B a	黒褐	25	C区
4	(2.25)	1.92	0.35	(5.51)	B	明赤褐	20	A区
5	(3.20)	1.98	0.30	(7.89)	B a	にぶい黄橙	40	A区
6	(3.88)	1.50	0.50	(7.56)	B	にぶい黄橙	40	D区
7	(4.38)	1.92	0.40	(13.68)	B a	明赤褐	50	A区
8	(4.80)	2.80	0.40	(13.75)	B a	灰白	60	A区
9	(4.82)	1.52	0.42	(9.58)	B' a	にぶい橙	70	A区
10	(5.30)	1.56	0.45	(11.19)	B a	にぶい黄橙	80	A区
11	(5.92)	2.46	0.60	(27.07)	C a	にぶい橙	80	A区
12	6.16	2.17	0.55	25.13	B a IV	にぶい橙	100	D区
13	6.35	2.39	0.60	29.79	B a IV	にぶい黄橙	100	No.7
14	6.77	1.42	0.52	14.43	B' a III	浅黄橙	100	A区
15	7.16	1.87	0.55	20.06	B a III	橙	100	B区
16	7.79	1.93	0.50	23.45	B a II	橙	100	A区

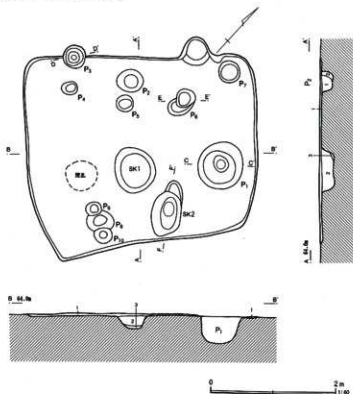
第3号住居跡 (第10図)

P-4グリッドを中心に位置する。南西壁が第44号住居跡と接している。平面は軸長2.95m×3.72mで、歪んだ方形で、深さは4cm程を測る。主軸方位はN-45.5°-Wを指す。

カマドは、北西壁の北東寄りに設けられている。燃焼部は47cm×48cmで僅かな窪み状を呈している。煙道部は確認できなかった。

遺物は、覆土中より須恵器・土師器片が出土し、ピット1から土師器坏が出土している。

第10図 第3号住居跡

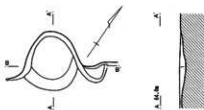


- 1 褐色 (10784/3) シルト質、焼土・炭化物多量、締まりよし、粘性弱
- 2 におい黄褐色(10785/3) シルト質、焼土・地山土少、締まりよし、粘性弱
- 3 におい黄褐色(10787/4) シルト質、地山土主体、締まりよし、粘性弱

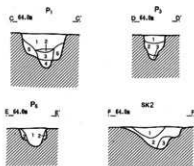
P2

- 1 におい黄褐色(10784/3) シルト質、焼土・炭化物、締まりよし、粘性有
- 2 におい黄褐色(10787/4) シルト質、地山土主体

カマド



- 1 におい黄褐色(10785/4) シルト質、焼土少
- 2 におい黄褐色(10785/4) シルト質、カマド跡層



- P1
- 1 灰黄褐色 (10784/2) シルト質、焼土・炭化物多量、地山土少、締まりよし、粘性弱
 - 2 におい黄褐色(10785/3) シルト質、締まりよし、粘性弱
- 2 黒褐色 (10782/1) 粘質、におい黄褐色土
- 4 灰褐色 (10784/1) 粘質、黒褐色粘質土ブロック多、締まりよし、粘性有
 - 5 におい黄褐色 (10785/3) シルト質、黒褐色粘質土ブロック少、締まりよし、粘性あり

P3

- 1 灰黄褐色 (10785/3) シルト質、地山土ブロック多、炭化物少、締まりよし、粘性弱
 - 2 灰黄褐色 (10785/3) シルト質、地山土・炭化物少、締まりよし、粘性弱
 - 3 灰黄褐色 (10785/3) 灰白色粘土ブロック多、締まりよし
- P4 灰黄褐色 (10784/2) シルト質、地山土ブロック、焼土・炭化物少

P5

- P5 灰黄褐色 (10784/2) シルト質、地山土ブロック、焼土・炭化物少

P6

- 1 におい黄褐色(10784/3) シルト質、地山土ブロック多、焼土少、締まりよし、粘性弱
 - 2 におい黄褐色(10785/3) シルト質、地山土主体、締まりよし、粘性弱
- P7 灰黄褐色 (10784/2) シルト質、地山土ブロック、焼土・炭化物少
- P8 におい黄褐色(10784/2)焼土・炭化物多量、地山土多
- P9 におい黄褐色(10784/3)地山土少、炭化物多量
- P10 におい黄褐色(10784/3)地山土少、炭化物多量

SK2

- 1 におい黄褐色(10785/3) シルト質、地山土ブロック混入、締まりよし、粘性弱
- 2 におい黄褐色(10785/3) シルト質、焼土・炭化物・地山土多、締まりよし、粘性弱
- 3 におい黄褐色(10787/4) シルト質、地山土主体、締まりよし、粘性弱



第3号住居跡出土遺物観察表 (第10図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(14.0)	3.9		B	普通	におい橙	45	P 1	

第4号住居跡 (第11図)

P-5グリッドを中心に位置する。平面は軸長2.92m×3.14mの方形で、深さは7cm程を測る。主軸方位は、N-16.5°-Wを指す。

カマドは北壁のやや東寄りに設けられている。燃烧部は79cm×66cmで床面から10cmほどの深さである。煙道部は確認できなかった。

遺物は、土師器高杯・甕の破片が、床から僅かに浮いた状態で白玉が出土した。白玉は径5.2~5.4mm、厚さ4.0mm、孔径2.2mm、重さ0.81gである。

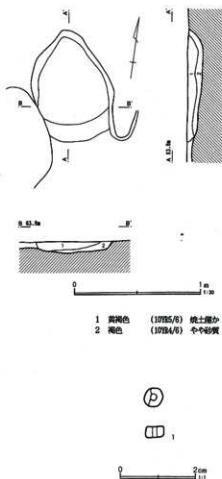
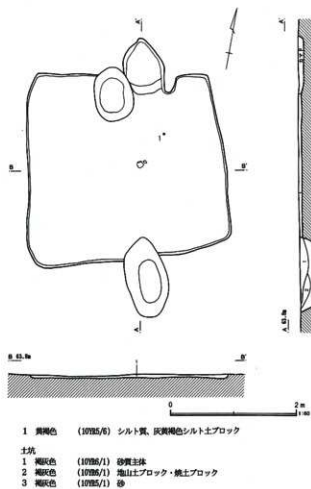
第5号住居跡 (第12・13図)

Q-5グリッドに位置する。南側が調査区外に延び、西壁が第10号住居跡を切っている。平面は軸長2.55m以上×4.44mで、深さは33cm程を測る。主軸方位は、N-35°-Wを指す。

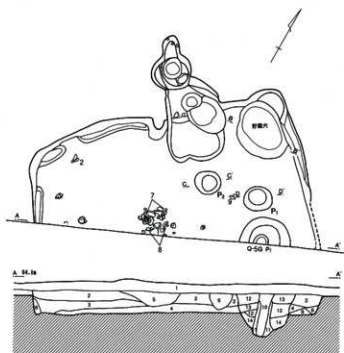
壁溝は全周しないが、幅12~16cm、深さ3~7cmを測る。

カマドは、北西壁のやや北東よりに設けられている。2箇所がビットに切られているが、燃烧部は143cm×45cmで、僅かな窪み状を呈している。

第11図 第4号住居跡



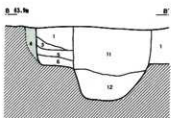
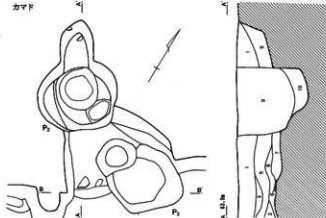
第12図 第5号住居跡



- 1 耕作土 (10YR3/2) 焼土・炭化物僅か、地山土少、シルト質
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山土ブロック多、焼土・炭化物少、シルト質
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山土ブロック多、焼土・炭化物少、シルト質
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山土ブロック多、焼土・炭化物少、部分的に灰白色粘土混入
- 5 黄褐色 (10YR3/2) 焼土・炭化物僅か
- 6 黄褐色 (10YR3/2) 地山土少

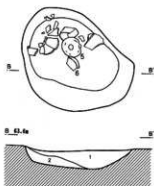
- 7 黄褐色 (10YR3/2) 地山土主珠、焼土僅か、シルト質
- 8 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山土多、シルト質
- 9 黄褐色 (10YR3/2) 地山土ブロック多、炭化物・焼土少
- 10 Q-5グリッド ヒット1 黄褐色 (10YR3/1) 地山土少、焼土僅か、白色粘土粒多、少ブロック
- 11 黄褐色 (10YR3/1) 地山土ブロック少、白色粘土多
- 12 黄褐色 (10YR3/2) 地山土少、焼土・炭化物僅か
- 13 黄褐色 (10YR3/2) 地山土ブロック多、焼土・炭化物少
- 14 黄褐色 (10YR3/2) 地山土ブロック、炭化物僅か

カマド

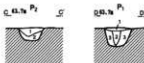


- 9 褐色 (10YR4/4) 地山土ブロックやや多、焼土・炭化物少、シルト質
- 10 暗褐色 (10YR3/4) 地山土ブロック少、シルト質
- 11 黄褐色 (10YR3/1) 地山土ブロック少、焼土僅か
- 12 黄褐色 (10YR3/1) 地山土ブロック多

貯蔵穴



- 1 黄褐色 (10YR3/2) 地山土少、焼土・炭化物僅か
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山土ブロック多、焼土・炭化物少



P1

- 1 黄褐色 (10YR3/1) 炭化物・焼土僅か
- 2 黄褐色 (10YR3/1) 地山土少、炭化物僅か
- 3 黄褐色 (10YR3/2) 地山土ブロック多

P2

- 1 黄褐色 (10YR3/2) 地山土・焼土少、炭化物僅か
- 2 黄褐色 (10YR3/2) 地山土・炭化物、焼土、部分的に灰白色粘土混入



- 1 黄褐色 (10YR3/2) 焼土・炭化物僅か、地山土少、シルト質
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山土ブロック多、焼土・炭化物少、シルト質
- 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト質、焼土・地山土少、炭化物、ブロック状に多
- 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト質、炭化物少、焼土・地山土ブロック多、暗褐色土
- 5 暗褐色 (10YR3/3) シルト質、焼土・炭化物・地山土ブロック少
- 6 暗褐色 (10YR3/3) 焼土多、炭化物・灰少
- 7 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山土ブロック多、炭化物少
- 8 黄褐色 (10YR3/1) 炭化物主珠、灰多、焼土・地山土ブロック少

Q-5グリッド ヒット2

- 9 褐色 (10YR4/4) 地山土ブロックやや多、焼土・炭化物少、シルト質
- 10 暗褐色 (10YR3/4) 地山土ブロック少、シルト質

Q-5グリッド ヒット3

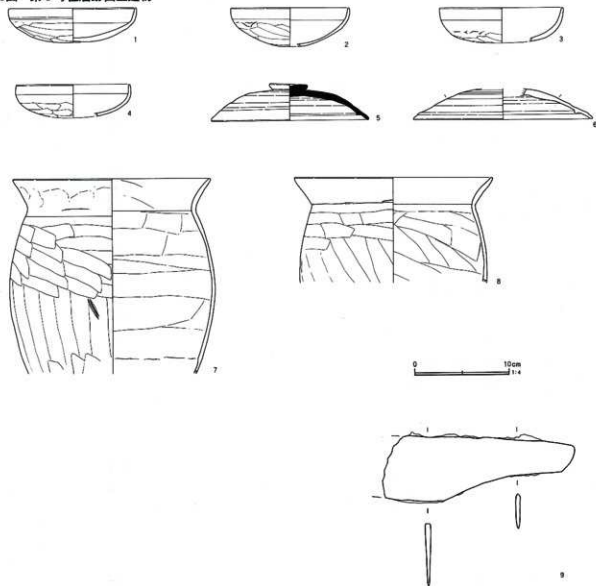
- 11 黄褐色 (10YR3/1) 地山土ブロック少、焼土僅か
- 12 黄褐色 (10YR3/1) 地山土ブロック多

貯蔵穴は北隅に備わる。上面は、長軸96cm×短軸74cmの不整楕円形を呈し、深さ13cm程を測る。

出土した。9の鉄製品は柄部分の遺存で重さ50.17gである。

遺物は、須恵器蓋、土師器坏・甕、土鍾と鉄製品が

第13図 第5号住居跡出土遺物



第5号住居跡出土遺物観察表 (第13図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.4)	3.6		DEJ	普通	にぶい橙	60	No19	
2	坏	(12.4)	4.0		DJ	普通	にぶい赤褐	60	No9	
3	坏	(13.0)			DJ	普通	にぶい橙	30	A区	
4	坏	(12.0)			J	普通	にぶい橙	30		
5	蓋	16.7	3.9		JL	良	黄灰	95	No30	貯蔵穴 つまみ直径4.0cm
6	蓋	(19.0)			AJL	不良	にぶい橙	20	No29	貯蔵穴 酸化塩焼成
7	甕	(21.0)			BDEFL	普通	にぶい赤褐	40	No15・16	
8	甕	(21.0)			BD	普通	にぶい赤褐	50	No16・18・21	

第5号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.53)	1.18	0.35	(2.85)	B a	橙	20	
2	(2.52)	1.05	0.35	(2.59)	B a	にぶい黄橙		B区
3	(3.21)	1.19	0.40	(3.57)	A a	灰黄褐		A区
4	(2.85)	1.73	0.40	(6.48)	B a	褐灰		A区
5	(2.85)	1.65	0.32	(6.78)	B b	淡黄	30	
6	(3.52)	1.45	0.50	(5.28)	B a	にぶい橙	50	
7	(4.11)	1.35	0.35	(5.73)	B a	浅黄橙	60	
8	(3.28)	1.91	0.50	(8.41)	B a	橙	25	
9	(5.41)	1.69	0.35	(12.64)	B a	にぶい橙	80	
10	(5.64)	2.03	0.50	(18.38)	B a	褐灰	80	

第6号住居跡(第14・15回)

P-6グリッドに位置する。第12号住居跡に切れ、第49号住居跡を切っている。平面は軸長3.46m×3.22mの方形で、深さは14cm程を測る。壁溝は全周せず、北東壁を除いた3壁の一部にあり、幅9~20cm、深さ4~10cmである。主軸方位は、N-51°-Wを指す。

カマドは、北東壁と北西壁に2基設けられている。北西壁のカマドAは燃焼部が203cm×57cmで、床面から深さ10cm程を測る。北東壁のカマドBは燃焼部が144cm×67cmで床面から僅かに窪む程度で、煙道部は82cm確認できた。支脚の礎が遺存していた。

遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯、土錘が出土した。

第7号住居跡(第16回)

O-6グリッドを中心に位置する。第19号住居跡・第34号土坑を切り、第26号土坑の上に乗っている。平面は軸長4.28m×2.77mの長方形で、深さ13cm程を測る。壁溝は北壁と西壁の一部にあり、幅11~16cm、

深さ2~4cmを測る。主軸方位は、N-36.5°-Eを指す。

カマドは、北東壁に設けられている。燃焼部は、113cm×59cm、床からの深さ20cmを測る。

遺物は、土師器杯、須恵器杯、鉄製品として小刀・鉄鎌の他、土錘が出土した。

鉄製品は5が刀身の一部で23.86g、6は刺のある角柱状のもので5.65gである。

第8号住居跡(第17・18回)

O-5グリッドを中心に位置する。平面は、軸長3.83m×5.77m、深さ12cm程を測る。主軸方位は、N-29°-Wを指す。

カマドは、北壁の中央に設けられている。燃焼部は、106cm×60cm、床からの深さ15cm、煙道部は50cm確認できた。

北西隅には、浅い土坑が検出された。

遺物は、土師器杯、須恵器杯・高台付碗・瓶と土錘が出土した。

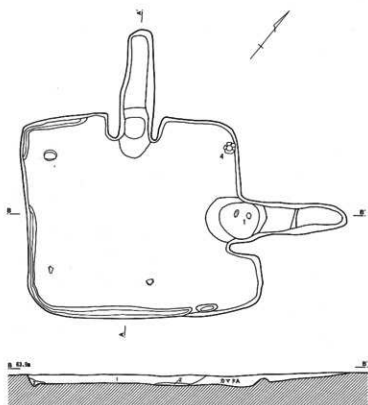
第6号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.50)	1.42	0.60	(3.07)	B	にぶい黄橙		A区
2	(4.51)	1.44	0.55	(6.50)	B a	にぶい黄橙	60	カマドA
3	(5.53)	1.81	0.50	(11.83)	B a	にぶい黄橙	70	A区

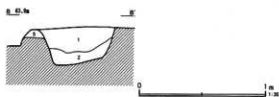
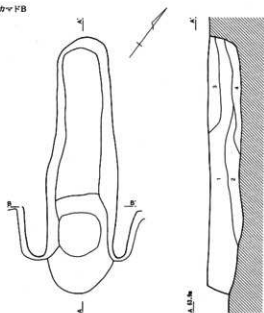
第7号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.32)	1.38	0.55	(5.63)	B	にぶい橙		B区
2	(4.48)	1.44	0.50	(6.45)	B a	淡黄	60	B区
3	3.75	2.00	0.42	14.12	E a V	灰黄	100	D区
4	5.23	2.10	0.38	17.40	C a V	にぶい褐	100	C区
5	6.78	2.21	0.65	(26.12)	B a III	褐灰	95	C区
6	6.95	1.37	0.49	(10.15)	B a III	にぶい橙	95	C区
7	8.33	1.59	0.49	16.91	B a II	淡黄	100	B区

第14図 第6号住居跡・カマドB



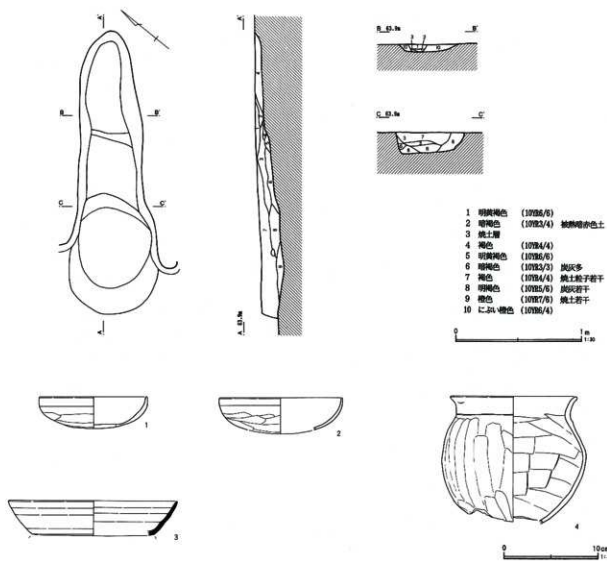
カマドB



- 1 黒褐色 (107B2/2) シルト質、焼土・炭化物類が、
地山土少締まりよし、粘性弱
- 2 黒褐色 (107B3/2) シルト質、地山ブロック多、
締まりよし、粘性弱
- 3 黒褐色 (107B2/2) 黒褐色、地山土少
- 4 にいり黄褐色(107B4/3) シルト質、地山土多

- 1 黒褐色 (107B2/2) シルト質、焼土・炭化物類が、
地山土少、締まりよし、粘性弱
- 2 黒褐色 (107B3/1) 炭化物・灰多、焼土ブロック少
- 3 黒褐色 (107B2/2) 地山ブロック多
- 4 黒褐色 (107B3/2) 地山土少、焼土・炭化物類が
- 5 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土主体、粘質黄土

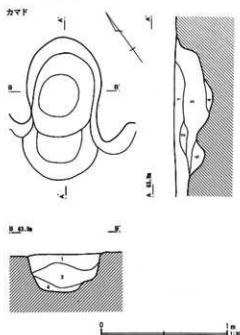
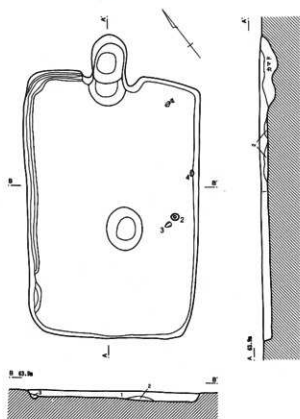
第15図 第6号住居跡カマドA・出土遺物



第6号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

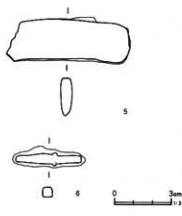
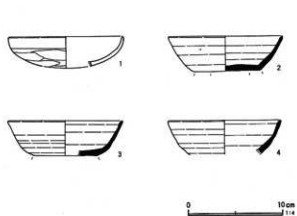
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	11.4	3.3		ADEGJ	良	にぶい橙	90	No1・カマド	床
2	坏	(13.0)			DJ	不良	にぶい橙	30	A区	
3	坏	(18.0)	3.7	(13.0)	BJ	良	灰	20	B区	
4	壺	13.2			BGKL	普通	褐	90	No2	

第16図 第7号住居跡



- 1 褐色 (107B4/4)
- 2 褐色 (107B4/5)
- 3 暗褐色 (107B3/4) 焼土多
- 4 暗褐色 (107B3/3) 焼土・炭灰多
- 5 暗褐色 (107B3/4) 炭灰若干

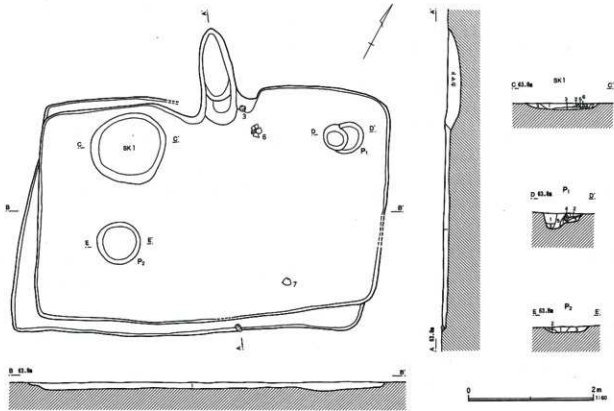
- 1 灰黄褐色 (107B4/2) シルト質、地山ブロック少、焼土・炭化燻煙か
跡まりよし、粘性强
- 2 濃い黄褐色(107B4/3) シルト質、地山土主体、灰黄褐色
跡まりよし、粘性强
- 3 灰黄褐色 (107B4/2) シルト質、地山土ブロック少、跡まりよし、粘性强



第7号住居跡出土遺物観察表 (第16図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.0)			A B J	不良	にぶい橙	10	C区	
2	坏	12.0	3.8	7.0	A B G J L	普通	黄灰	100	No2	床 底部右回転周辺へラ削り
3	坏	(12.2)	3.7	(6.7)	A B I J L	良	灰白	45	No1	底部右回転へラ削り
4	坏	(12.0)			J L	普通	灰白	25	No3	床

第17図 第8号住居跡・カマド

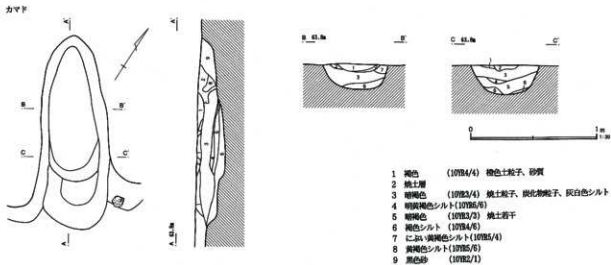


- 1 褐色 (10784/4) 白色炭粒子多、炭化樹皮子・褐色土粒子若干
 跡まりよし、砂質土

- SK 1
 1 褐色 (10784/6) 黄褐色(10785/6)粒子、赤色粒子
 2 褐色 (10784/4)
 3 におい黄褐色(10785/4)
 4 黄褐色 (10785/6)
 5 におい黄褐色(10785/4) 粘土
 6 明黄褐色 (10785/6)

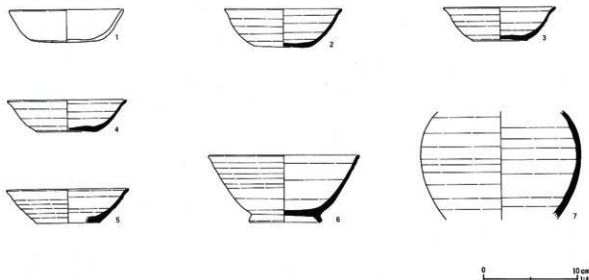
- P 1
 1 褐色 (10784/4) 灰色シルト
 2 におい黄褐色シルト(10787/4)
 3 褐色 (10784/6) 黄褐色土多
 4 褐色 (10784/4) 黄褐色土多
 5 褐色 (10784/4) 黄褐色土ブロック
 6 黄褐色砂質ブロック(10785/6)

- P 2
 1 褐色 (10784/6) におい黄褐色シルト
 2 褐色 (10784/4) 炭化樹皮子痕
 3 褐色 (10784/4) 黄褐色土多
 4 褐色 (10784/4)



- 1 褐色 (10784/4) 褐色土粒子、砂質
 2 焼土層
 3 暗褐色 (10783/4) 焼土粒子、炭化樹皮子、灰白色シルト
 4 明黄褐色シルト(10785/6)
 5 暗褐色 (10783/2) 焼土若干
 6 褐色シルト (10784/6)
 7 におい黄褐色シルト(10785/4)
 8 黄褐色シルト(10785/6)
 9 黒色砂 (10782/1)

第18図 第8号住居跡出土遺物



第8号住居跡出土遺物観察表 (第18図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.2)	3.5	(8.0)	BEG	不良	にぶい橙	25	B区	
2	坏	12.4	4.1	6.1	BL	良	灰	70	B区・C区	底部右回転糸切り
3	坏	(12.0)	3.6	5.8	ABJL	良	灰	60	No1	床
4	坏	(12.7)	3.4	6.2	JL	普通	灰	30	A区	底部右回転糸切り
5	坏	(13.0)	3.5	(6.8)	BEJL	良	黄灰	25	B区	底部回転糸切り
6	高台付碗	16.0	7.1	7.8	ABEJL	普通	灰	80	No2	床 内面底部酸化塩焼成
7	瓶				ABIL	良	灰	25	No3・C区	床+5cm

第8号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.21)	1.68	0.45	(5.29)	Ba	橙	30	C区
2	(3.30)	1.15	0.48	(4.37)	Ba	淡黄	40	D区
3	(3.74)	1.69	0.52	(8.45)	Ba	黄灰	80	C区
4	(5.40)	1.35	0.45	(11.02)	Ba	にぶい橙	90	C区
5	(5.73)	1.68	0.58	(14.30)	Ba	浅黄橙	90	
6	5.72	1.45	0.49	11.00	BaIV	灰白	100	A区
7	6.31	1.99	0.50	21.56	BaIV	にぶい橙	100	B区
8	6.47	2.14	0.65	22.41	BaIV	浅黄橙	100	D区
9	5.77	1.66	0.58	(9.99)	Ba	黒褐	80	P2

第9号住居跡 (第19図)

P-5グリッドを中心に位置する。平面は、軸長3.63m×3.16mの台形で、深さ7cm程を測る。主軸方位は、N-40°-Wを指す。

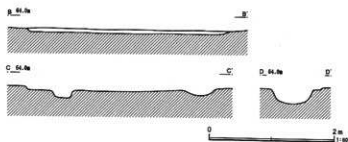
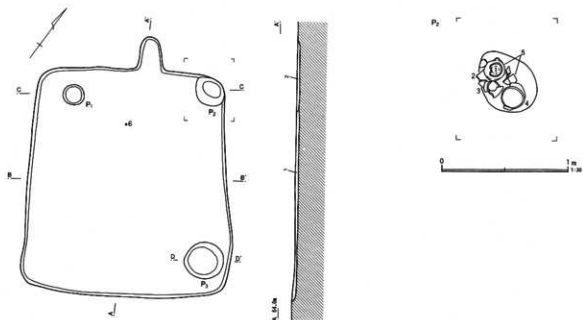
カマドは、北西壁や北東寄りに設けられている。燃焼部は110cm×43cmで床面と同じ高さである。

貯蔵穴は、北隅にあり、長軸54cm、短軸42cm、深さ

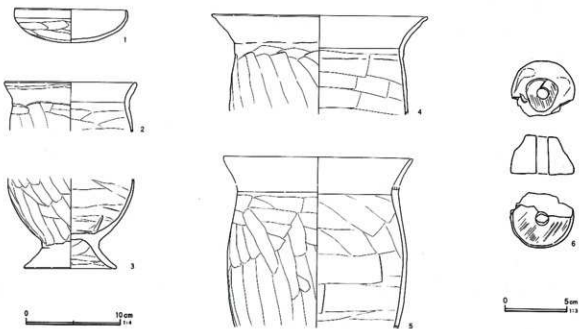
12cmの楕円形である。

遺物は、土器器坏・台付寛・寛・土製紡錘車、土錘が出土した。紡錘車は床面から出土し、他の土器は貯蔵穴から出土した。6の土製紡錘車は、長径5.0cm、短径2.5cm、厚さ3.0cm、重さ56.93gで80%程度の残存である。上面・下面ともにヘラナデしている。

第19図 第9号住居跡



- 1 におい黄褐色(10785/4) シルト質、地山土多、焼土・灰燼層か
 2 灰黄褐色 (10784/2) シルト質、焼土・灰まばらに少(カマド層土)
 P1 におい黄褐色(10785/3)灰燼か、地山土ブロック多



第9号住居跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	11.9	3.5		ABDJ	普通	にぶい橙	95	No3	甕2の上
2	甕	(14.0)			BD	普通	にぶい赤褐	30	No9	床
3	台付甕			9.8	BFJL	普通	にぶい褐	60	No5・B区	
4	甕	(23.0)			FGJ	普通	橙	60	No6	床
5	甕				BEFJ	普通	褐	60	No4・No8	床+5cm

第9号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.54)	1.69	0.53	(9.41)	Ba	淡黄	90	pit 1

第10号住居跡 (第20・21図)

Q-4・5グリッドに位置する。平面は、軸長4.22m×4.36mの方形で、深さ6cm程を測る。主軸方位は、N-119°-Wを指す。

カマドは、南西壁の中央に設けられている。燃焼部は、長軸130cm×短軸53cmの楕円形を呈し、床面から深さ7cmを測る。

遺物は、土師器高杯・甕と土錘・土玉が出土した。土玉はカマド内より出土した。

土玉は、径10.3-12.0mm、高さ8.7mm、孔径2.3mm、重さ1.05gである。

第11号住居跡 (第22図)

O・P-7グリッドを中心に位置する。第15号・第32号住居跡の上に乗っている。平面は、軸長3.27m×4.84mの長方形で、壁溝によって検出された。壁溝は、南東壁のみが確認できなかったが、幅12cm、深さ4-8cmを測る。主軸方位は、N-40°-Wを指す。

カマドは、北西壁の中央に設けられている。燃焼部は、長軸73cm×短軸50cmの楕円形を呈し、床面から深さ17cmを測る。

遺物は、土錘と土師器坏片・甕片が出土した。

第10号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.85)	1.71	0.61	(8.35)	Ba	浅黄橙	80	

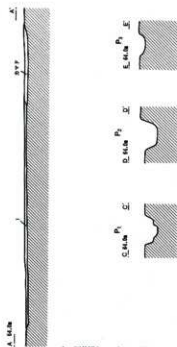
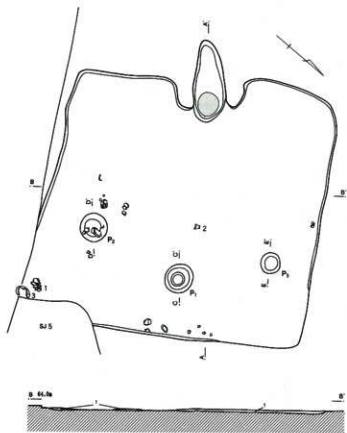
第20図 第10号住居跡出土遺物



第10号住居跡出土遺物観察表 (第20図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	高坏	(23.0)			BEFJ	普通	橙	40	No21	床
2	高坏			(11.2)	BFJK	普通	橙	80	No3	床+5cm
3	甕				BF	不良	にぶい黄橙	30	No22	床 外面錘状工具調整

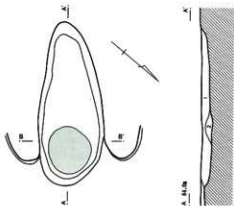
第21図 第10号住居跡



1 灰黄褐色 (1094/2) シルト質、焼土・炭化物、珪土多



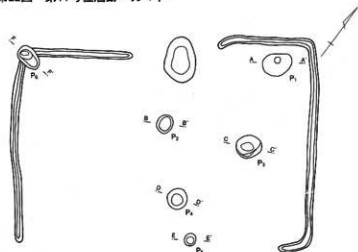
カマド



1 濃い黄褐色(1094/1) シルト質、焼土少、灰・炭化物極少
2 黒褐色 (1092/2) シルト質、焼土・炭化物多



第22図 第11号住居跡・カマド



S J 11

P 1

- 1 におろ褐色 (10785/2) 褐色シルト
- 2 褐色 (10784/4)
- 3 褐色 (10784/4) 褐色シルト層多
- 4 におろ褐色 (10785/2) 褐色シルト層多
- 5 におろ褐色 (10785/4)

P 2

- 1 褐色 (10784/2) 焼土・炭化物若干
- 2 褐色 (10784/2) 褐色シルト・焼土粒子
- 3 褐色 (10784/4) 黄褐色シルト多

P 3

- 1 黄褐色 (10783/1) 焼土・炭化物
- 2 黄褐色 (10783/4)
- 3 褐色シルト (10784/8)

P 4

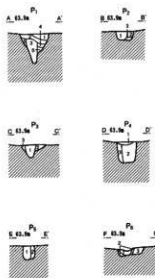
- 1 におろ褐色 (10786/4)
- 2 黄褐色 (10783/4)
- 3 褐色シルト (10784/4)

P 5

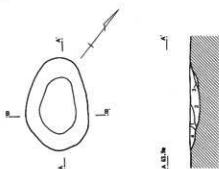
- 1 黄褐色 (10783/1) 黄褐色土・炭化物
- 2 黄褐色 (10786/8)

P 6

- 1 褐色 (10784/2)
- 2 褐色 (10784/2) 黄褐色シルト
- 3 におろ褐色 (10785/2) 炭化物層



カマド



B. B. 4



- 1 黄褐色 (10782/2) 焼土層
- 2 におろ褐色 (10785/4)
- 3 炭化物
- 4 黄褐色 (10784/2) 黄褐色シルト



第11号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	7.30	1.76	0.58	20.32	Ba III	黄灰	100	

第12号住居跡(第23図)

P-6グリッドに位置する。第6号住居跡・第28号土坑に切られ、南西壁は第29号・第30号土坑に切られ、第49号住居跡の上に乗る。軸長4.00m×4.63mで、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N-42°-Eを指す。

カマドは、北東壁中央に設けられている。燃焼部は、63cm×41cmで、床面から深さ12cmを測る。煙道部は85cm確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、土錘が出土した。甕はカマド右袖あたりに伏せた状態で出土した。

第13号住居跡(第24・25図)

P-7グリッドに位置する。平面は確認できず、カマド・土坑・ピットのみ検出できた。主軸方位は、N-44°-Eを指す。

カマドは、北東壁に設けられたと考えられる。燃焼部は141cm×60cmの楕円形で、深さ20cmを測る。支脚の礎が遺存していた。

遺物は、土師器鉢・甕・壺、土錘、鉄製品が出土した。鉄製品(6)は、角柱状のもので重さ5.83gである。

第12号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.83)	1.62	0.67	(5.09)	Ba	淡黄	40	D区

第13号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.02)	1.48	0.47	(8.81)	Ba	にぶい黄橙	50	土坑

第12号住居跡出土遺物観察表(第23図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(10.0)	2.9		DJ	不良	にぶい橙	20	B区	
2	甕	(23.0)			ABJ	普通	にぶい黄褐	50	No3・No4・No5	カマド
3	甕	20.4			BDEJ	良	橙	75	No3	カマド

第14号住居跡(第26・27図)

O-7グリッドを中心に位置する。平面は、軸長2.76m×3.68mの長方形で、深さ20cm程を測る。主軸方位は、N-9.5°-Wを指す。

カマドは、北壁の西寄りに設けられている。燃焼部は、165cm×135cmで床面と同じ高さで、煙道部燃焼部と段差を有し、65cm確認できた。

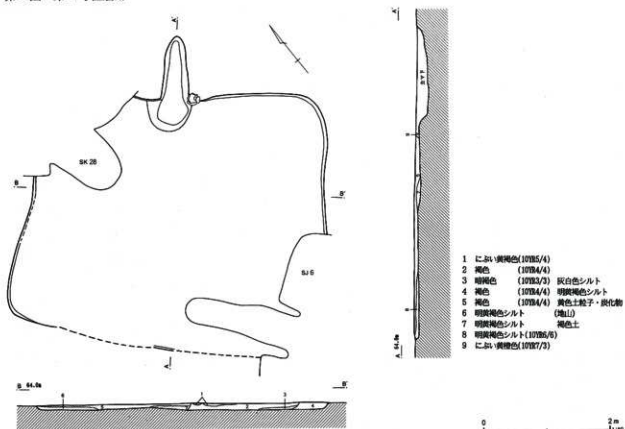
遺物は、土師器坏・台付甕脚台部・甕、須恵器坏が出土した。坏はカマド袖部周辺から検出した。

第15号住居跡(第28・29図)

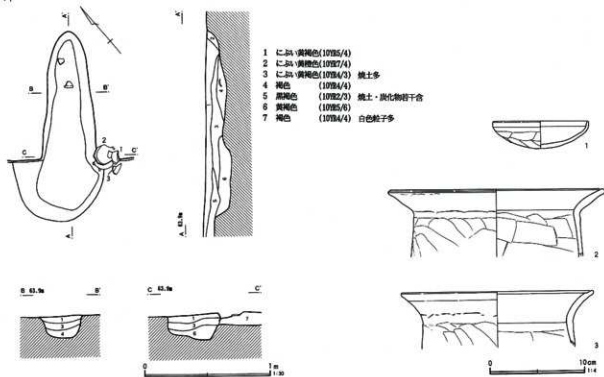
O-6・7グリッドに位置する。第66号・67号・68号住居跡・第5号性格不明遺構の上に乗る、第11号住居跡の下にあり、第32号住居跡を切っている。平面は軸長7.22m×5.13mの長方形で、深さ12cm程を測る。壁溝は、カマドのある北壁以外は断続的に周り、幅12~18cm、深さ5~8cmを測る。主軸方位は、N-34°-Wを指す。

カマドは、北壁中央に設けられている。燃焼部は140cm×53cmの楕円形で、床面から8cm程窪んでおり、煙道部は40cmが確認できた。

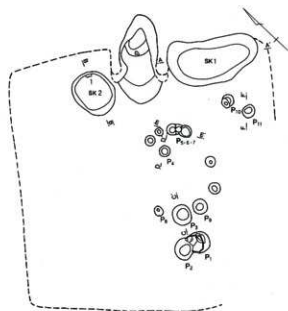
第23図 第12号住居跡



カマド



第24図 第13号住居跡・カマド



P 3

- 1 暗茶褐色 (10YR5/4) 焼土・炭化燻少
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・炭化物中多
- 3 茶褐色 (10YR5/6) 焼土・炭化物少・暗褐色土中多
- 4 黄褐色 (10YR7/5) 雜まり多い(粘土)
- 5 灰褐色 (10YR7/4) 粘質土ブロック

P 4

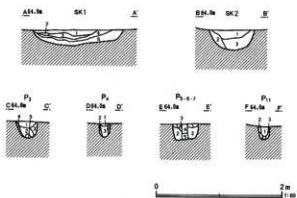
- 1 暗灰褐色 (10YR6/2) 焼土・炭化物中多
- 2 褐色 (10YR6/6) 焼土・炭化物少
- 3 茶褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物少

P 5・6・7

- 1 暗茶褐色 (10YR4/3) 焼土・炭中多
- 2 茶褐色 (10YR5/6) 炭化物少
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 焼土・炭化物中多
- 4 暗黄褐色 (10YR4/2) 黄褐色土中多
- 5 褐色 (10YR7/4) 茶褐色土中多

P 11

- 1 暗茶褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物・黄褐色土少
- 2 黄褐色 (10YR7/5) 茶褐色土少
- 3 茶褐色 (10YR4/6) 焼土・炭化物中多
- 4 褐色 (10YR6/6) 焼土・炭化物多



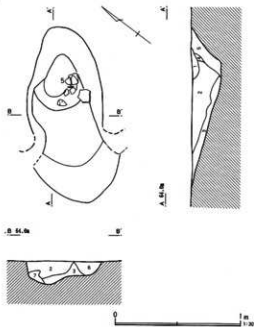
SK 1

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・炭化物多、中多軟質
- 2 黄褐色 (10YR2/2) 焼土中多、炭化物多
- 3 暗褐色 (7.5YR6/5) 焼土層、焼土塊主体、炭中多
- 4 暗茶褐色 (10YR4/6) 焼土・炭化物中多
- 5 黄褐色 (10YR7/5) 茶褐色土中多

SK 2

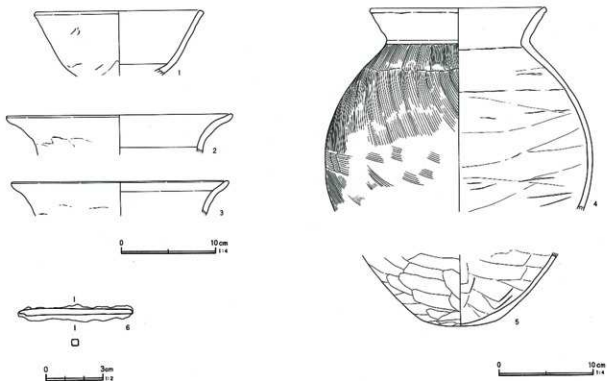
- 1 茶褐色 (10YR5/4) 焼土・炭化燻多、灰褐色土少
- 2 褐色 (10YR6/3) 焼土・炭化物中多
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・炭化物中多、灰褐色土少

カマド

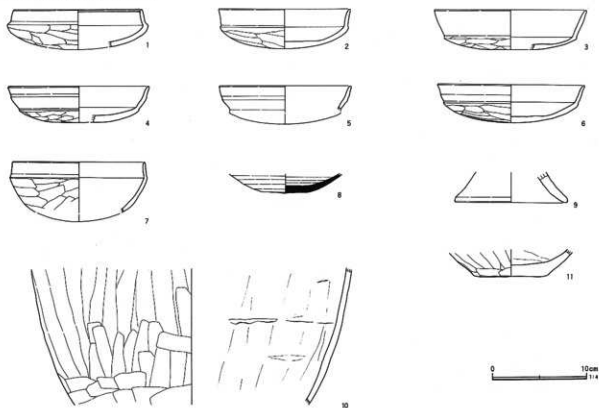


- 1 茶褐色 (10YR5/6) 焼土・炭化物中多
- 2 暗褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物多、灰褐色土中多
- 3 褐色 (10YR6/4) 暗褐色土・灰褐色土中多
- 4 暗褐色 (10YR5/3) 焼土・炭化物少、灰褐色土多
- 5 茶褐色 (10YR5/6) 焼土・炭化物中多、灰褐色土少
- 6 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・炭化物中多、灰褐色土少
- 7 茶褐色 (10YR4/6) 焼土・炭化物燻少

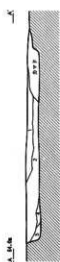
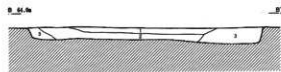
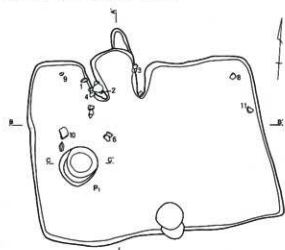
第25图 第13号住居跡出土遺物



第26图 第14号住居跡出土遺物



第27図 第14号住居跡・カマド

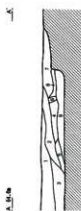
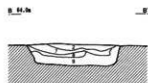
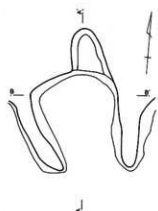


- 1 灰褐色 (10Y7/3) 焼土・炭化物少
- 2 暗褐色 (10Y3/4) 焼土・炭化物・灰褐色土層状にやや多
- 3 茶褐色 (10Y5/6) 焼土・炭化物少量、灰褐色土やや多
- 4 暗褐色 (10Y3/4) 焼土・炭化物多、灰褐色土少
- 5 茶褐色 (10Y5/4) 焼土・炭化物やや多、灰褐色土少

- P 1
- 1 褐色 (10Y6/6) 焼土・炭化物少、暗褐色土やや多
- 2 茶褐色 (10Y4/4) 焼土・炭化物やや多
- 3 灰褐色 (10Y7/3) 暗褐色土少

0 2m 1m

カマド



- 1 灰褐色 (10Y7/3) 焼土・炭化物少
- 2 黒褐色 (10Y3/2) 焼土・炭化物多、灰褐色土層状にやや多
- 3 暗褐色 (10Y3/4) 焼土・炭化物、灰褐色土やや多
- 4 暗褐色 (10Y3/4) 焼土・炭化物多、灰褐色土少
- 5 灰褐色 (10Y7/4) 暗褐色土やや多
- 6 灰褐色土ブロック(10Y3/6)
- 7 褐色 (10Y7/6) 焼土・炭化物少、暗褐色土やや多
- 8 暗赤褐色 (5Y2/6) 焼土・炭化物多
- 9 暗茶褐色 (10Y4/4) 焼土・炭化物、灰褐色土少

0 1m

第13号住居跡出土土物観察表 (第25図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	鉢	(18.0)			A J	普通	にぶい黄橙	10	No7	P 2
2	甕	(24.0)			D G J	普通	にぶい橙	10		カマド
3	甕	(23.0)			D E G	普通	にぶい橙	10	P 4	
4	甕	18.5			B J	普通	橙	60		体部外面刷毛目
5	甕			(7.4)	A B D J L	不良	にぶい赤褐	20	No2	カマド

第14号住居跡出土土物観察表 (第26図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.6)			B D E	普通	にぶい褐	25	No10	
2	坏	(14.0)	4.2		B D E	普通	にぶい黄橙	30	No14・C区	カマド左軸直上
3	坏	(16.0)	4.2		A B E J L	不良	にぶい橙	20	No4	カマド右軸直上
4	坏	(15.0)	3.8		A B D E J L	普通	褐灰	20	No9	
5	坏	(14.0)			B E	不良	褐灰	10		
6	坏	(15.6)	4.0		D E J	不良	にぶい黄褐	70	No5・9・A区	
7	坏	(14.0)			A B J	良	にぶい橙	15	A区	
8	坏			5.2	B	良	灰	40	No2	底部右回転ヘラ削り
9	台付甕			(12.0)	G J	普通	にぶい橙	10	No11	
10	甕				B D J	普通	橙	10	No12	外面↓方向→方向ヘラ削り
11	甕			7.8	B E	普通	にぶい橙	70	No1	外面↓→方向ヘラ削り

遺物は、土師器坏と銅製品、土錘、玉・白玉が出土した。銅製品(4)と白玉(6)は床から僅かに浮いた状態で出土した。

4は刀装具の一部で現存長2.37cm、現存幅1.01cm厚さ0.32cm、重さ2.66gである。5は灰白色に酸化したガラス玉と考えられる。径7.0mm、孔径4.1mm、厚さ3.4mm、重さ0.28g。6は白玉で径5.5mm、孔径1.8mm、厚さ2.8mm、重さ0.14g。

第16号住居跡 (第30図)

N-7グリッドに位置する。南東部が第73号住居跡の上に乗っている。平面は、軸長2.98m×3.27mの方形で、深さ10cm程を測る。壁溝は、北・西壁と南壁の一部で検出した。幅8~17cm、深さ3~6cmを測る。主軸方位は、N-14°-Wを指す。

カマドは、北壁の東寄りに設けられている。燃焼部

は、95cm×61cmの楕円形を呈し、床面から7cmほど窪んでいる。

貯蔵穴は、北東隅にあり径55cm×60cmの円形である。

遺物は、土師器坏・甕が出土した。

第17号住居跡 (第31図)

O-7・8グリッドに位置する。平面は、軸長2.70m×2.95mの方形で、深さ16cm程を測る。主軸方位は、N-74°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられ、東側に寄っている。燃焼部は、104cm×80cmの方形を呈し、床面と同じ高さである。

貯蔵穴は、南東隅に設けられ、径28cm×30cmの円形を呈する。

遺物は、須恵器坏・高台付椀、土師器甕、土錘が出土した。

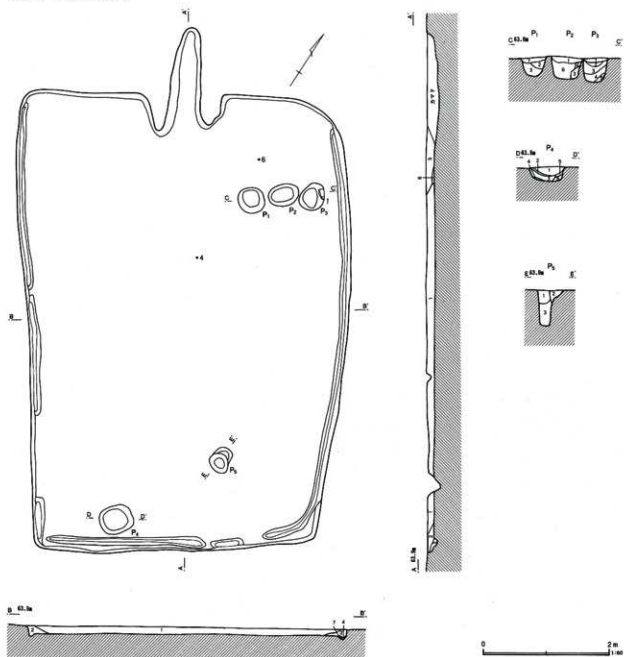
第15号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.18)	1.32	0.60	(3.76)	B a	にぶい橙	30	
2	(3.90)	1.57	0.69	(7.99)	B a	にぶい黄橙	60	
3	(5.16)	1.34	0.60	(7.83)	B a	にぶい黄橙	70	
4	4.20	2.21	0.35	17.92	C a VI	にぶい黄橙	100	カマド
5	7.44	1.59	0.52	14.64	B a III	淡黄	100	

第17号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	3.45	1.75	0.45	9.29	C a VI	にぶい黄橙	100	B区
2	6.50	1.42	0.53	10.85	B a III	褐灰	100	B区

第28図 第15号住居跡



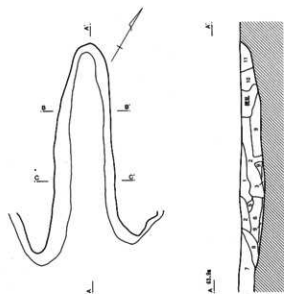
- 1 暗茶褐色 (107B/6) 灰褐色土・焼土・炭化物中々多
- 2 暗褐色 (107B/4) 黄褐色土少、焼土・炭化物中々多
- 3 茶褐色 (107B/2) 黄褐色土中々多
- 4 褐色 (107B/3) 黄褐色土少
- 5 茶褐色 (107B/6) 灰褐色土中々多、焼土・炭化物少
- 6 黄褐色 (107B/3/4) 焼土・炭多量
- 7 灰褐色 (107B/6) 焼土・炭中々多

- P1・2・3
- 1 暗赤褐色 (57B/3) 焼土・炭化物多
- 2 褐色 (107B/4) 黄褐色土中々多
- 3 茶褐色 (107B/4) 焼土・炭化物少
- 4 暗褐色 (107B/4) 焼土・炭化物多
- 5 灰褐色 (107B/4) 暗褐色土少
- 6 暗茶褐色 (107B/4) 焼土・炭化物中々多、黄褐色土少
- 7 茶褐色 (107B/6) 焼土・炭化物・黄褐色土少

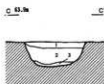
- P4
- 1 茶褐色 (107B/4) 焼土・炭化物中々多、黄褐色土少
- 2 褐色 (107B/6) 暗褐色土層状に中々多
- 3 暗褐色 (107B/4) 黄褐色土少
- 4 褐色 (107B/6) 暗褐色土少、中々砂質
- 5 黄褐色 (107B/6) 暗褐色土少
- 6 茶褐色 (107B/6) 黄褐色土少

- P5
- 1 暗褐色 (107B/3) 黄褐色土層状に中々多く、焼土・炭化物少
- 2 黄褐色 (107B/6) 暗褐色土層状多
- 3 茶褐色 (107B/4) 黄褐色土層少

第29図 第15号住居跡カマド・出土遺物



- 1 にぶい黄褐色(107B5/4) 焼土増多
- 2 暗褐色 (107B3/3) 焼土薄・炭化物・灰白色シルト
- 3 明黄褐色シルト(107B6/5)
- 4 にぶい黄褐色(107B6/4) 白色微粒子
- 5 にぶい黄褐色(107B6/4) 白色微粒子・焼土若干
- 6 暗褐色シルト(107B3/4) 焼土多く、灰白色シルト若干
- 7 明黄褐色シルト(107B7/5)
- 8 暗褐色シルト(107B3/4) 炭化物多
- 9 暗褐色シルト(107B2/3)
- 10 暗褐色シルト(107B3/3) 炭化物・焼土若干
- 11 にぶい黄褐色(107B4/3) 炭化物微量、灰白色微粒子若干



0 1m

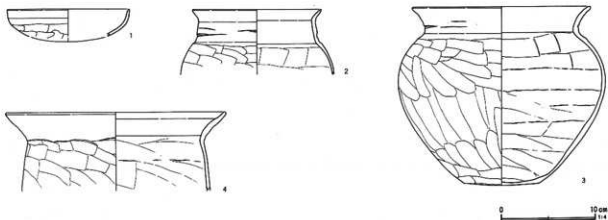
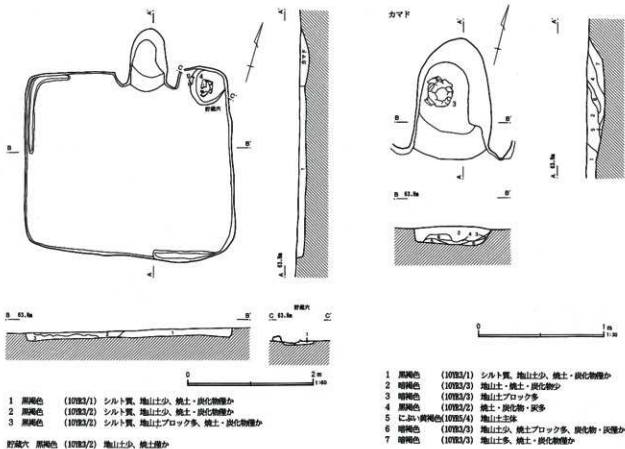
0 10cm

0 2cm

第15号住居跡出土遺物観察表 (第29図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(14.4)	4.6		BDEJ	普通	にぶい橙	65	No 1 P3	
2	坏	(12.0)			BD	不良	にぶい橙	10		
3	坏	(14.0)			B	良	にぶい褐	15	P3	

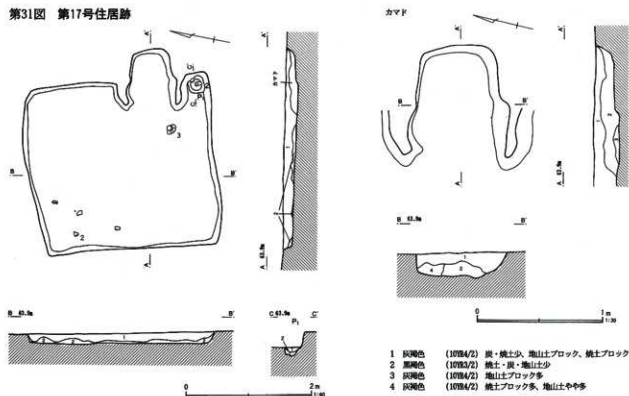
第30図 第16号住居跡



第16号住居跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.0)			DG	普通	橙	20	A区	
2	堿	13.7			BDG	普通	にぶい赤褐	50		
3	堿	(19.0)	18.8	(8.0)	BD	普通	にぶい赤褐	40	No1	カマド 底部一方向ヘラ削り
4	堿	23.4			BEJ	普通	にぶい赤褐	90	No2・3	貯蔵穴

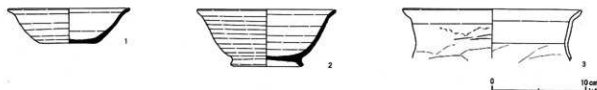
第31図 第17号住居跡



- 1 灰褐色 (107B4/2) 炭化物・焼土少、地山土ブロック
 2 濃い褐色 (107B5/4) 地山土ブロック多、焼土・炭化物少な

- P1
 1 暗褐色 (107B3/4) 黄褐色土(地山土)粘ブロックやや多
 2 暗茶褐色シルト(107B4/4) 炭化物・焼土微量か、粘質

- 1 灰褐色 (107B4/2) 灰・焼土少、地山土ブロック、焼土ブロック
 2 黒褐色 (107B3/2) 焼土・灰・地山土少
 3 灰褐色 (107B4/2) 地山土ブロック多
 4 灰褐色 (107B4/2) 焼土ブロック多、地山土やや多



第17号住居跡出土遺物観察表 (第31図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	13.0	3.7	6.3	H J L	良	灰	95	No3・5・B区	底部右回転糸切り
2	高台付碗	14.8	6.0	7.6	B J L	普通	灰	80	No1・sv1・B区	床+5cm
3	寛	(19.0)			B F J L	不良	濃い褐色	10	A区	

第18号住居跡 (第32・33・34図)

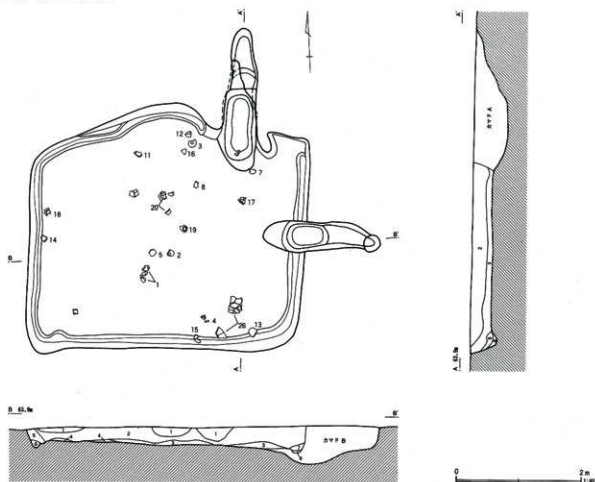
〇-8グリッド中心に位置する。第55号・第74号住居跡を切っている。平面は、軸長4.38m×3.46mの方形で、深さ33cm程を測る。壁溝はほぼ全周し、幅19~33cm、深さ4~9cmを測る。主軸方位は、N-3°-Eを指す。

カマドは、北壁の東寄り(A)と東壁中央(B)に設けられている。カマドAの燃焼部は、122cm×53cmの楕円形を呈し、床面から深さ23cmを測る。煙道部は

傾斜しながら上がり、107cmを確認できた。燃焼部から煙道にかけての一部で被熱した天井部が遺存していた。カマドBの燃焼部は、105cm×50cmの楕円形で、床面からの深さ23cmを測る。燃焼部と煙道部は段差を持ち83cm確認できた。燃焼部から煙道の煙出しまで天井が遺存し、煙出しは径30cm×27cmの円形を呈している。

遺物は、須恵器坏・碗・高台付碗・高台付皿・寛、土師器寛、石製紡錘車、土玉、土錘が出土した。紡錘

第32図 第18号住居跡

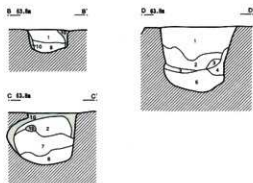
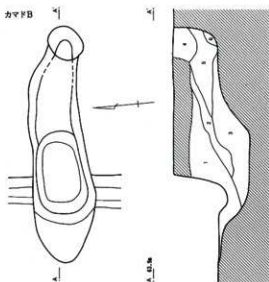
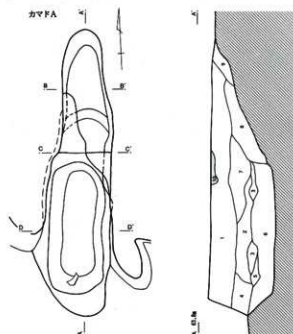


- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 (1793/1) 地山土少、炭化物・焼土やや多 | 6 灰褐色 (1793/2) 灰褐色中に地山土多 |
| 2 におい・黄褐色 (1793/3) シルト質、地山土ブロック状、焼土・炭化物 | 7 黒褐色 (1793/1) 炭化物・焼土ブロック・地山土ブロック |
| 3 黒褐色 (1793/2) 地山土少、炭・焼土少量含む、粘性やや有り | 8 黒褐色 (1793/1) 炭化物・焼土ブロック |
| 4 黒色 (1793/1) 炭化物を主体とする層、地山土・焼土少粘性有り | 9 黒褐色 (1793/1) 炭化物多、地山土ブロック、粘性有り |
| 5 灰黄褐色 (1793/2) 焼土・炭・地山土少 | |

第18号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.00)	1.74	0.50	(5.89)	B a	灰黄褐	30	D区
2	(3.20)	1.60	0.45	(6.99)	B a	褐灰	30	A区
3	(3.79)	1.65	0.85	(6.70)	B a	にぶい黄橙	40	C区
4	(4.04)	1.69	0.50	(9.61)	B a	灰白	60	D区
5	(4.08)	1.56	0.58	(9.04)	B a	灰黄褐	60	D区
6	4.00	1.78	0.60	11.43	B a VI	にぶい黄橙	100	C区
7	4.18	1.74	0.55	11.59	B a VI	にぶい橙	100	D区
8	4.22	1.82	0.50	12.39	B a VI	褐灰	100	No.16
9	(5.07)	1.60	0.50	(9.68)	B a	にぶい橙	80	D区
10	6.03	1.78	0.55	(14.81)	B a IV	浅黄橙	95	D区
11	6.42	1.92	0.65	(18.86)	B a IV	灰黄	95	No.19
12	6.09	2.06	0.48	25.24	B a IV	灰黄褐	100	D区

第33図 第18号住居跡カマドA・B、出土遺物(1)

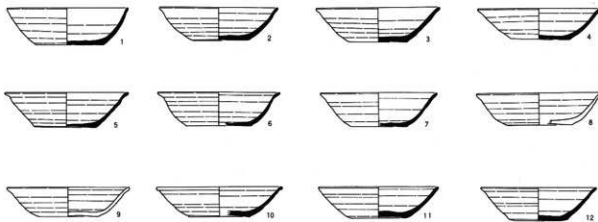


カマドA

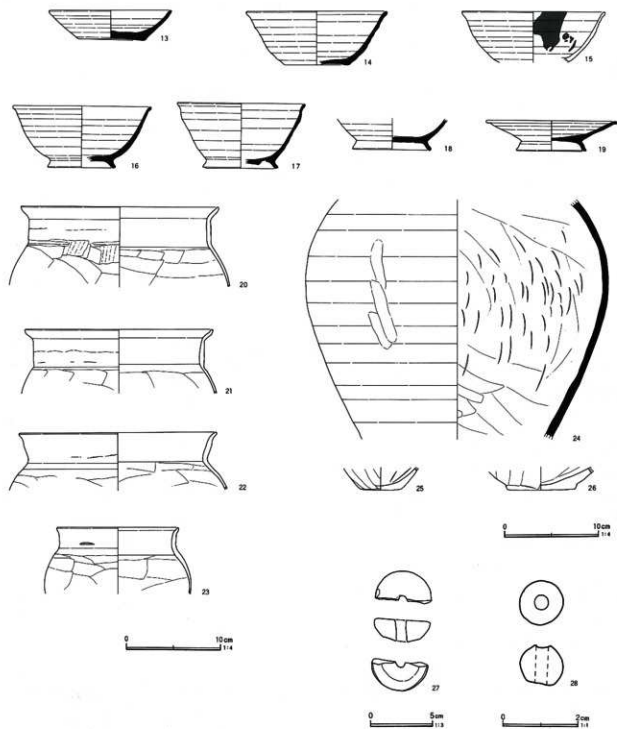
- 1 におい黄褐色(107B/2) シルト質、地山土ブロック、焼土・炭化物
- 2 黒褐色 (107B/2) シルト質、地山土ブロック多、焼土・炭化物少な
- 3 におい黄褐色(107B/2) 焼土ブロック多、地山土ブロック、炭化物少
- 4 黒褐色 (107B/2) 地山土少、炭化物・焼土少な、磁土や含有
- 5 黒褐色 (107B/2) シルト質、地山土ブロック多、炭化物・焼土少
- 6 黒色 (107B/1) 炭化物・灰を主体、地山土・焼土少量、磁土少
- 7 灰黄褐色 (107B/2) 地山土・焼土・炭化物少量
- 8 黒褐色 (107B/2) 地山土(ブロック含む)多、焼土少量
- 9 黒褐色 (107B/2) 地山土少、炭少量
- 10 明赤褐色 (2.57B/5) 焼土(被熱面)

カマドB

- 1 褐色 (107B/4) 焼土・黄褐色土多
- 2 明黄褐色シルト(107B/5)
- 3 暗褐色 (107B/2) 焼土・明黄褐色シルト若干
- 4 におい黄褐色(107B/4) シルト質、カーボン若干
- 5 暗褐色 (107B/4) カーボン若干
- 6 におい黄褐色(107B/4) 暗褐色土多



第34図 第18号住居跡出土遺物 (2)



車は覆土中で、土玉は床面からの出土である。

27の石製紡錘車は、長径4.4cm×短径3.0cm、厚さ1.8cm、孔径0.7~0.9cm、重さ26.56gで半分は欠損

している。

28の土玉は、径11.6mm×10.6mm、孔径2.6mm、重さ1.45gである。

第18号住居跡出土土器観察表 (第33・34図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	12.9	3.9	7.1	B L	良	灰	90	No14・15・D区	床
2	坏	12.6	3.5	6.2	E L	不良	灰黄褐	75	No12・D区	底部右回転糸切り
3	坏	13.2	3.7	6.1	A H J L		黄灰	90	No3	床 底部右回転糸切り
4	坏	13.0	3.3	6.3	E H K L	不良	灰	60	No17・D区	床 底部右回転糸切り
5	坏	13.1	3.7	6.6	E L	不良	にぶい黄橙	70	No13・D区	床+5cm 底部右回転糸切り
6	坏 (13.0)	3.5	(7.0)	B J	普通	灰	30	カマド・A区	底部右回転糸切り	
7	坏 (12.4)	3.6	(6.0)	B J	普通	灰	40	No6	床+8cm 底部右回転糸切り	
8	坏 (13.4)	3.4	(7.0)	E J	普通	にぶい赤褐	40	No5	底部周辺へラ削り 酸化焙焼成	
9	坏 (13.0)	3.1	(6.2)	H J L	普通	橙	30	D区	底部右回転糸切り 酸化焙焼成	
10	坏 (13.4)	3.2	(7.0)	L	良	灰	20	B区	底部回転糸切り2回	
11	坏 (12.6)	3.3	6.2	F L	普通	灰	30	No28	床 底部右回転糸切り	
12	坏 (12.5)	3.6	6.3	J	良	灰	40	No2		
13	坏 (13.1)	3.2	7.0	A F L	良	灰	90	No24・A区	床 底部右回転糸切り	
14	碗 (15.0)	5.7	(7.0)	A B F J L	不良	灰	50	No18・A区・D		
15	碗	15.2		E G H L	不良	灰赤	50	No18・D区	床 内面体部一部、底部に油煙付着 酸化焙焼成	
16	高台付碗 (14.8)	6.5	(7.2)	B F H J	普通	灰	20	No4・A区		
17	高台付碗 (13.6)	6.9	(8.0)	J L	普通	灰	35	No7		
18	高台付碗		8.3	B L	良	灰黄	60	No25		
19	高台付皿 (13.9)	3.2	7.4	A J	不良	にぶい黄橙	60	No11	床	
20	甕 (21.0)			A D E G	普通	にぶい橙	25	No9・10・A区	床	
21	甕 (20.0)			B G	普通	にぶい橙	15	カマド		
22	甕 (21.0)			B E	良	にぶい赤褐	25	カマド		
23	甕 (13.0)			D J L	普通	にぶい赤褐	10	D区		
24	甕			B J L	良	灰	20	No20・21	床	
25	甕		4.3	B D	普通	にぶい褐	70	カマド		
26	甕		(7.2)	J K L	普通	にぶい黄褐	30	D区		

第19号住居跡 (第35図)

P-5・6グリッドに位置する。第7号住居跡に切られ、第23号・第24号・第53号住居跡・第34号土坑の上に乗っている。平面は、軸長3.45m×4.88mの長方形で、深さ15cm程を測る。壁溝は西壁と南壁の一部にあり、14~22cm、深さ4~6cmを測る。主軸方位は、N-39°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、120cm×52cm、床面から深さ20cmを測る。煙道部は緩やかに傾斜して上り62cm確認できた。

遺物は、覆土中より土師器坏、土鍾出土した。

第20号住居跡 (第36図)

N-6グリッドを中心に位置する。カマドのみの検出で、平面は確認できなかった。主軸方位は、N-33°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられていると考えられる。燃焼部は、148cm×84cmの楕円形を呈し床面から深さ20cmを測る。煙道部は40cm確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏、土鍾が出土した。

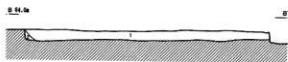
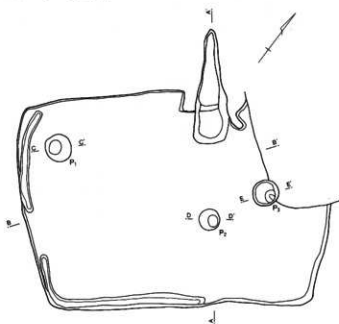
第19号住居跡出土土鍾観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.31)	1.59	0.51	(5.48)	B	黄灰・灰黄	20	C区
2	(4.15)	1.71	0.68	(10.86)	B a	淡黄	60	D区
3	(4.46)	1.60	0.60	(10.40)	B a	淡黄	70	C区
4	4.98	1.67	0.55	10.12	C a V	にぶい橙	100	D区
5	4.31	1.83	0.50	12.59	B a VI	にぶい橙	100	A区
6	5.34	1.67	0.52	12.71	B a V	にぶい黄橙	100	D区
7	7.25	1.75	0.51	20.86	B' a III	黄灰	100	A区

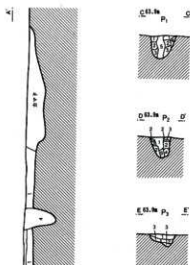
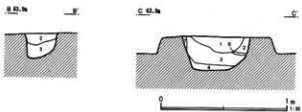
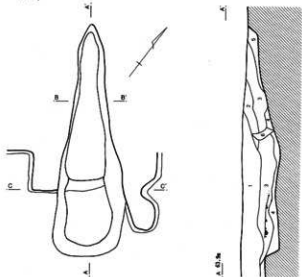
第20号住居跡出土土鍾観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(1.02)	1.17	0.45	(1.22)	B a	黄灰	10	カマド
2	(4.30)	1.74	0.40	(11.04)	B a	橙	60	

第35図 第19号住居跡



カマド



- 1 褐色シルト (1078/4) 炭化物粒子若干
- 2 褐色シルト (1078/4) 白色炭化物粒子若干
- 3 褐色シルト (1078/4) 明黄褐色シルト
- 4 にい・黄褐色(1078/4)



- P1
- 1 褐色 (1078/6) 純土・炭化物少量
 - 2 茶褐色 (1078/6) 黄褐色土・中々多含
 - 3 茶褐色 (1078/6) 跡まり良い
 - 4 黄褐色 (1078/6)
 - 5 茶褐色 (1078/6) 純土・炭化物僅か、細粒

- P2
- 1 黄褐色 (1078/2) 炭化材
 - 2 浅黄褐色 (1078/4)
 - 3 黄褐色 (1078/2) 浅黄褐色土
 - 4 にい・黄褐色(1078/4)
 - 5 にい・黄褐色(1078/4)

- P3
- 1 褐色 (1078/4) 純土・炭化物
 - 2 褐色 (1078/4) 明黄褐色土
 - 3 明黄褐色 (1078/6)

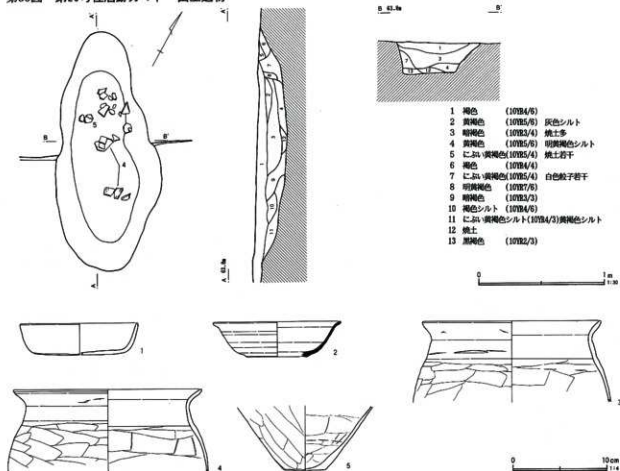
- 1 茶褐色 (1078/4) 純土・炭化物少量、黄褐色土・中々多
- 2 褐色 (1078/6) 純土・炭化物中々多
- 3 暗茶褐色 (1078/4) 純土・炭化物多量
- 4 褐色 (1078/6) 純土・炭化物中々多
- 5 褐色 (1078/6) 純土・炭化物少量
- 6 黄褐色 (1078/6) フロック・褐色土少量含
- 7 赤灰褐色 (578/8) 純土・炭化物多量 (粘土)



第19号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.0)			D	普通	にぶい橙	10		

第36図 第20号住居跡カマド・出土遺物



第20号住居跡出土遺物観察表 (第36図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.6)	3.3	(10.0)	G	不良	橙	15	カマド	
2	坏	(13.6)	3.7	(6.6)	B J	良	灰	20	カマド	底部回転糸切り
3	甕	(19.0)			B	普通	褐	25	カマド	
4	甕	(20.0)			B D G	普通	にぶい赤褐	25	No1・2	カマド
5	甕		4.4		E G H J	普通	にぶい黄褐	40	No11	カマド

第21号住居跡 (第37・38図)

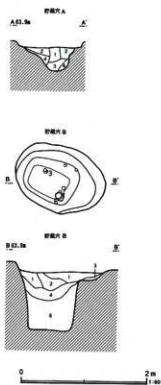
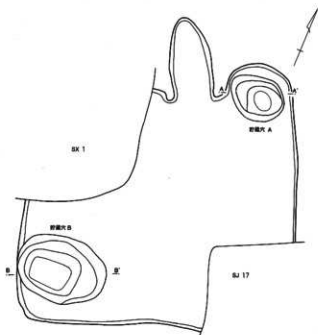
N・O-7グリッドに位置する。第17号住居跡・第1号性格不明遺構に切られている。平面は、軸長3.85m×4.30mの方形で、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-22°-Wを指す。

カマドは、北壁のやや東に設けられている。燃焼部は、90cm×70cm、床面から深さ23cmを測る。煙道部は32cm確認できた。

貯蔵穴は、北東隅(A)と南西隅(B)の2基が検出された。貯蔵穴Aは、上面は91cm×70cmの楕円形、底面は円形を呈している。貯蔵穴Bは、145cm×105cmの楕円形で、底面は方形を呈している。

遺物は、土師器坏・甕・甔が出土した。坏(3)と甔(6)は貯蔵穴Bの深さそれぞれ70cm、50cmで出土した。

第37図 第21号住居跡・カマド



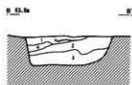
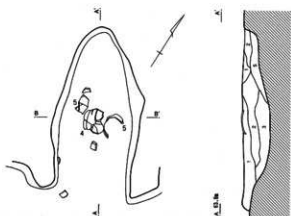
野蔵穴A

- 1 暗褐色 (10B3/3) 地山土少、炭化物量少
- 2 灰黄褐色 (10B4/2) 地山土ブロック、焼土・炭化物少
- 3 暗褐色 (10B3/3) 地山土多、炭化物量少
- 4 にこみ黄褐色(10B4/3) 地山土多

野蔵穴B

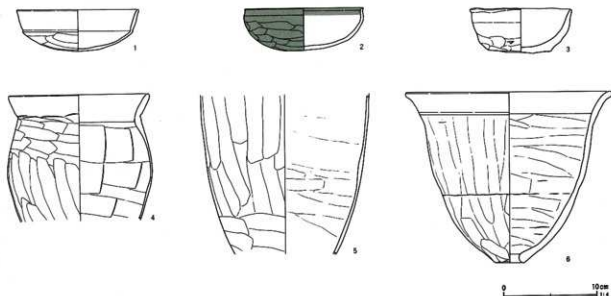
- 1 にこみ黄褐色(10B4/3) シルト質、地山土少、焼土・炭化物量少
- 2 黒褐色 (10B3/2) シルト質、焼土ブロック・地山土少、炭化物多
- 3 にこみ黄褐色(10B4/3) シルト質、地山土少
- 4 暗褐色 (10B3/4) 地山土多、炭化物を多
- 5 灰黄褐色 (10B4/2) 地山土多、炭化物少量、やせ砂質

カマド



- 1 にこみ黄褐色(10B4/3) 地山土、焼土・炭化物量少、シルト質
- 2 黒褐色 (10B3/2) シルト質、焼土・炭化物多、炭化物・地山土少
- 3 黒褐色 (10B3/2) シルト質、焼土・炭化物少、地山土多
- 4 にこみ黄褐色(10B4/3) シルト質、地山土多、炭化物少
- 5 暗褐色 (10B3/3) シルト質、地山土多、焼土・炭化物少

第38図 第21号住居跡出土遺物



第21号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.0)	4.4		BE	不良	橙	60	貯蔵穴B	
2	坏	12.6	4.5		EJ	良	橙	60	貯蔵穴B	内面全面・外面口縁部に赤彩
3	坏	10.8	4.8	6.7	BFJL	普通	にぶい黄橙	100	No7	貯蔵穴B 底部手持ちヘラ削り
4	壺	(15.0)			DGJ	普通	にぶい赤褐	30	No2	カマド
5	壺				A E J L	不良	にぶい赤褐	20	No1・3	カマド
6	瓶	(22.0)	18.0	(3.0)	DEGJL	普通	にぶい黄橙	40	No8	貯蔵穴B

第22号住居跡 (第39図)

O-6グリッドに位置する。第57号住居跡の上に乗る、第4号性格不明遺構を切っている。平面は、軸長3.38m×3.65mの台形で、深さ13cm程を測る。壁溝は南壁の一部に確認され、幅13~23cm、深さ4~7cmを測る。主軸方位は、N-64°-Eを指す。

カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は137cm×62cmの楕円形を呈し、床面から深さ20cmを測る。煙道部は33cm確認できた。

遺物は、須恵器坏、土師器甕、土鍾が出土した。

第23号住居跡 (第40・41図)

P-5・6グリッドに位置する。第19号住居跡に切られている。平面は、軸長4.35m×4.62mの台形と考えられ、深さ14cm程を測る。主軸方位は、N-46.5°-Wを指す。

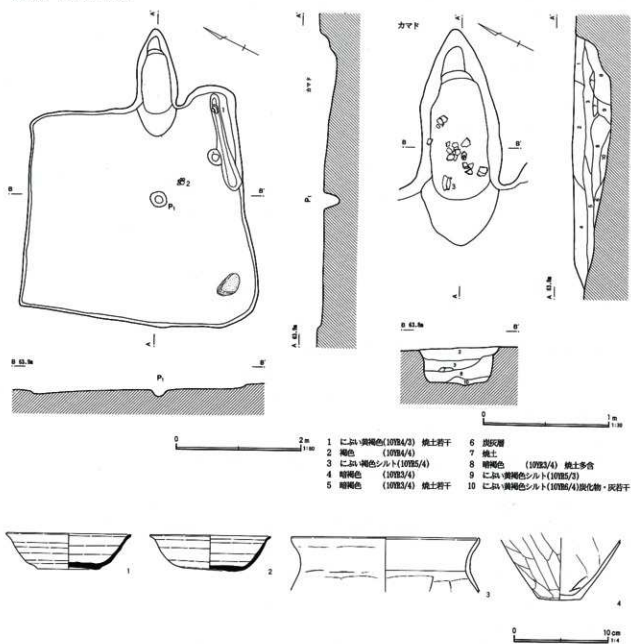
カマドは、北西壁やや北東寄りに設けられている。燃焼部は、146cm×60cmで、焚き口は土坑状を呈し床面から深さ10cmを測る。

遺物は、土師器坏・盤・鉢が出土した。

第22号住居跡出土土鍾観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.58)	1.32	0.51	(3.05)	B	橙	30	
2	3.90	1.89	0.42	11.84	CaVI	浅黄	100	No. 9
3	4.15	2.00	0.48	14.23	BaVI	にぶい黄橙	100	A区
4	5.24	1.78	0.46	16.01	BaV	褐灰	100	
5	5.83	1.57	0.41	(11.57)	BaIV	褐灰	95	A区
6	6.00	1.73	0.50	(14.43)	Ba	褐灰	95	A区

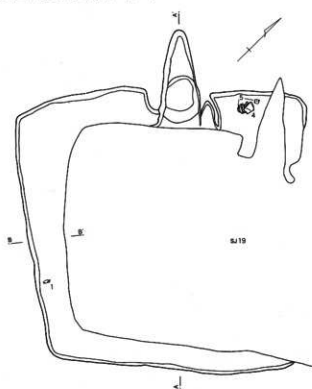
第39図 第22号住居跡



第22号住居跡出土遺物観察表 (第39図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	13.3	3.8	6.7	AGJL	良	黄灰	80	No8・B区	床 底部右回転糸切り
2	坏	12.9	3.8	5.7	AFJL	良	灰	70	No7・B区	床 底部右回転糸切り
3	甕	(20.0)			BDEG	普通	橙	10	No1	カマド
4	甕			4.5	BEG	普通	にい-赤褐	40	A区	

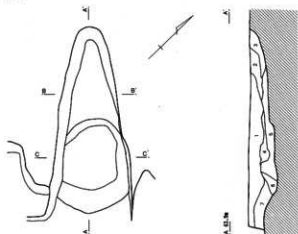
第40図 第23号住居跡・カマド



1 褐色 (10B5/4) 焼土・炭化物層がに含



カマド



B-B

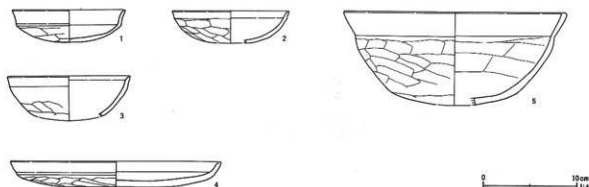


C-C



- 1 暗赤褐色 (5D4/6) 焼土・炭化物多量に含
- 2 暗茶褐色 (5D4/4) 焼土・炭化物少量含
- 3 暗赤褐色 (5D2/4) 焼土・炭化物やや多く含
- 4 茶褐色 (10B5/4) 焼土・炭化物少量、褐色土やや多く含
- 5 赤褐色 (5D5/8) 焼土・炭化物多量に含
- 6 茶褐色 (5D5/8) 焼土・炭化物ほとんど含まない
- 7 褐色 (5D5/8) 焼土・炭化物やや多く含
- 8 暗赤褐色 (5D4/4) 焼土・炭化物少量含
- 9 褐色 (5D6/4) 焼土・炭化物ほとんど含まず、暗褐色土少量含

第41図 第23号住居跡出土遺物



第23号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.0)	3.4		A J	不良	橙	10	No4	床
2	坏	(12.4)	3.4		B E	普通	橙	35	カマド	
3	坏	(13.0)			A B F J	不良	にぶい橙	10		
4	釜	(22.4)	2.7		D E J	不良	にぶい黄橙	30	No2	
5	鉢	23.6	9.9	(13.4)	B J	普通	にぶい赤褐	60	No1・3	床+5cm

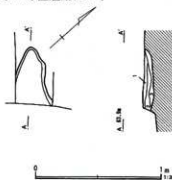
第24号住居跡 (第42図)

P-5グリッドに位置する。第19号・第23号住居跡に切られている。カマドのみの検出で、主軸方位は、N-45°-Wを指す。

第25号住居跡 (第43・44図)

O-8グリッドに位置する。第54号・第55号住居跡を切っている。平面は、軸長3.47m×3.85mの方形で、深さ46cm程を測る。壁溝は西壁と北壁の一部で検出し、幅12~22cm、深さ5~7cm程を測る。主軸方位は、N-62°-Eを指す。

第42図 第24号住居跡カマド

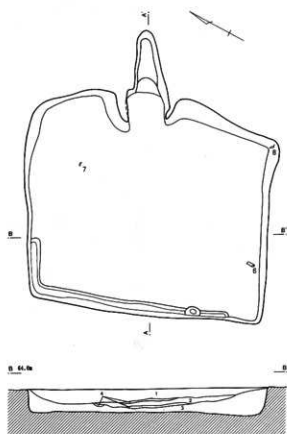


- 1 暗褐色 (10B3/4) 焼土・炭多量に含
- 2 茶褐色 (10B6/4) 暗褐色土や中多、焼土・炭少量含
- 3 暗茶褐色 (10B4/6) 焼土・炭や中多

第25号住居跡出土土種観察表 (1)

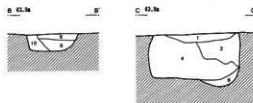
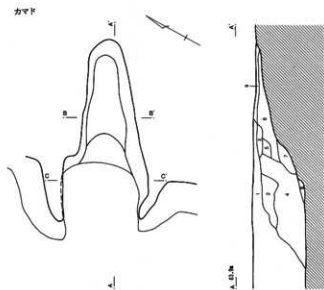
番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.37)	1.52	0.55	(2.65)	B a	にぶい黄橙	20	C区
2	(2.57)	1.36	0.55	(2.93)	B a	にぶい橙	20	南東区
3	(2.83)	1.14	0.50	(2.64)	B a	にぶい黄橙	80	A区
4	(2.77)	1.09	0.47	(3.24)	B' a	黒褐	40	C区
5	(2.93)	1.51	0.60	(4.32)	B a	橙	30	A区
6	(2.94)	1.69	0.48	(5.49)	B a	灰黄褐	30	A区
7	(3.01)	1.76	(0.36)	(4.83)	B	にぶい橙	20	A区
8	(2.45)	1.78	0.42	(8.54)	B	にぶい黄橙	30	C区
9	(3.62)	2.21	0.53	(10.12)	C a	にぶい黄橙	45	北東区
10	(3.57)	1.56	0.82	(7.32)	B' a	浅黄橙	50	B区
11	(3.80)	1.82	0.55	(10.57)	B a	淡黄	60	D区
12	(4.63)	1.68	0.60	(9.82)	B a	黄灰	40	C区
13	(4.89)	1.65	0.58	(8.96)	B a	浅黄橙	50	D区
14	(4.88)	1.44	0.45	(8.06)	B a	浅黄橙	90	C区
15	(4.56)	1.93	0.42	(15.93)	B a	黄灰	60	北西区
16	(4.51)	1.69	0.50	(11.99)	B' a	灰黄褐	80	北東区

第43図 第25号住居跡・カマド



- | | | | |
|---|------|----------|-------------------------------|
| 1 | 茶褐色 | (10B5/4) | 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少 |
| 2 | 茶褐色 | (10B5/4) | 焼土・炭化物やや多、
黄褐色土多、黄褐色土ブロック多 |
| 3 | 暗茶褐色 | (10B4/4) | 焼土・炭化物やや多、黄褐色土やや多 |
| 4 | 黒褐色 | (10B3/2) | 炭屑、炭化物多、焼土・茶褐色土少 |
| 5 | 茶褐色 | (10B5/4) | 焼土・炭化物・黄褐色土多 |
| 6 | 茶褐色 | (10B5/6) | 焼土・炭化物・黄褐色土やや多 |

0 2m
1:50



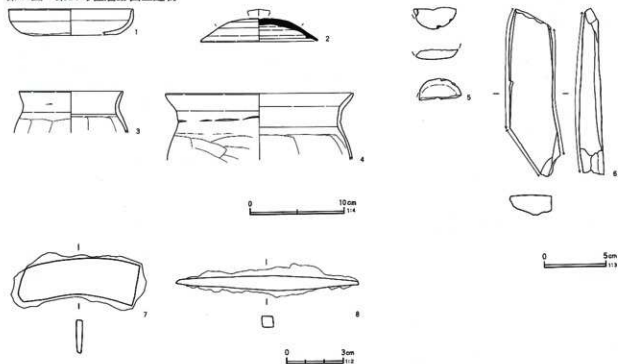
- | | | | |
|----|------|----------|-----------------|
| 1 | 茶褐色 | (10B5/4) | 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少 |
| 2 | 茶褐色 | (10B5/4) | 焼土・炭化物やや多、黄褐色土多 |
| 3 | 黄褐色 | (10B7/6) | 焼土・炭化物・茶褐色土少 |
| 4 | 暗茶褐色 | (10B4/4) | 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少 |
| 5 | 茶褐色 | (10B5/6) | 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少 |
| 6 | 暗茶褐色 | (10B4/4) | 焼土・炭化物・黄褐色土少 |
| 7 | 茶褐色 | (10B4/6) | 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少 |
| 8 | 黄褐色 | (10B7/6) | 焼土・炭化物やや多 |
| 9 | 褐色 | (10B6/6) | 焼土・炭化物多、黄褐色土少 |
| 10 | 褐色 | (10B6/6) | 焼土・炭化物少、黄褐色土多 |

0 1m
1:50

第25号住居跡出土土錘観察表(2)

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
17	(5.46)	1.50	0.52	(11.48)	B'a	褐灰	80	D区
18	5.36	2.88	0.65	15.96	BaV	にぶい橙	100	D区
19	(5.15)	1.89	0.62	(17.18)	Ba	褐灰	60	B区
20	6.00	1.57	0.32	13.33	BaIV	橙	100	C区
21	4.65	1.98	0.40	16.80	BbV	淡黄	100	北西区
22	5.06	1.87	0.45	17.05	BaV	にぶい黄橙	100	南東区
23	5.57	1.94	0.63	17.79	BaV	灰白	100	A区
24	5.86	1.63	0.55	(13.19)	BaIV	にぶい橙	95	北西区
25	(5.80)	2.27	0.55	(23.61)	C	にぶい橙	80	C区
26	6.08	1.79	0.60	(14.30)	BaIV	黄灰	95	南西区
27	6.31	1.94	0.48	(19.89)	BaIV	褐灰	95	カマドB
28	6.55	1.95	0.52	(18.64)	BaIV	にぶい橙	95	北西区
29	7.21	1.89	0.50	18.97	BaIII	にぶい黄橙	100	D区

第44図 第25号住居跡出土遺物



第25号住居跡出土遺物観察表(第44図)

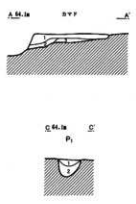
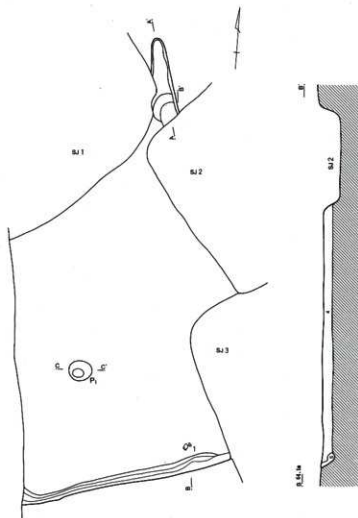
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	13.2	2.8		GJ	普通	橙	60	A区	
2	蓋	(12.4)			ABFL	良	灰	60	C区・SJ54C区	
3	甕	(11.0)			DH	普通	褐	10	南東区	
4	甕	(20.0)			BDEJ	普通	にぶい黄橙	10	南東区	

カマドは、東壁や北寄りに設けられている。燃烧部は、103cm×68cmで床面と同じ高さである。煙道部は燃烧部と段差を有し、73cm確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器蓋、土錘、石製紡錘車、砥石、鉄製品が出土した。紡錘車(5)は一部の

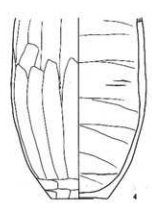
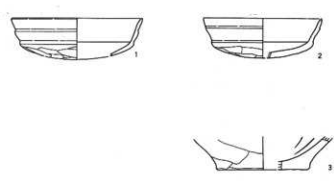
断片で復元短径2.6cm、重さは5.80g。砥石(6)は床面から出土し、両端がかけているが、3面使用され、重さは124.68g。鉄製品はいずれも床面から出土し、7は鎌の刃部で27.51g、8は両端が細くなり尖った角柱状のもので18.83gである。

第45図 第26号住居跡



- 1 褐色 (10704/4) 地山土・焼土ブロック少、炭化物層か
- 2 におい黄褐色(10704/2) 地山土・炭・灰少、焼土ブロック多
- 3 褐色 (10704/4) 地山土多、焼土・炭層か
- 4 黒褐色 (10703/1) 地山ブロック、焼土・炭層か
- 5 黒褐色 (10703/1) 地山土層か

- P 1
- 1 黒褐色 (10703/3) 地山土少、焼土・炭層か
- 2 におい黄褐色(10704/3)



第26号住居跡 (第45図)

Q・R-4グリッドを中心に位置する。北部は第1号住居跡、東部は第2号・第27号住居跡に切られている。西部は現道下で、平面は不明である。壁溝は、南壁のみ確認され、幅12~17cm、深さ9~28cmを測る。

主軸方位は、N-7°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃烧部は、第1号・第2号住居跡に切れ不明であるが、煙道部は90cm確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、土錘が出土した。

第26号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.75)	1.42	0.47	(2.88)	B a	褐灰	40	
2	(3.90)	1.48	0.42	(5.04)	B a	褐灰	50	
3	(4.06)	1.53	0.60	(6.39)	A a	にぶい橙	50	A区
4	(3.94)	1.48	0.40	(5.85)	B a	にぶい橙	50	A区
5	(4.34)	1.62	0.57	(8.47)	B a	淡黄	60	A区
6	(4.62)	1.48	0.55	(8.57)	B a	にぶい橙	90	A区
7	5.70	1.40	0.52	10.01	B a IV	淡黄	100	
8	5.80	1.58	0.53	11.25	B a IV	灰白	100	
9	6.02	1.50	0.51	10.61	B a IV	にぶい橙	100	B区
10	5.87	1.57	0.59	(9.62)	B a IV	にぶい橙	95	A区
11	6.20	1.44	0.51	(9.17)	B a IV	にぶい橙	95	
12	(6.33)	1.49	0.55	(10.46)	B	灰黄褐	90	B区
13	6.30	1.65	0.55	(11.96)	B a IV	淡黄橙	95	A区
14	7.85	1.47	0.57	10.82	B a II	淡黄	100	

第26号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(14.0)	4.2	(10.0)	DE J L	普通	褐灰	25	No1	床 底部へラ削り
2	坏	(12.6)			AB J	普通	にぶい黄褐	30	A区	
3	甕				AB J	不良	にぶい橙	25	B区	
4	甕				A J K L	普通	にぶい橙	30	A区	

第27号住居跡 (第46図)

Q・R-4グリッドに位置する。第2号・第39号住居跡に切れ、第26号住居跡を切っている。南東部は調査区外になっている。平面は、不明で深さ19cm程を測る。確認できた北東・南西壁より、主軸方位は、N-29°-Wを指す。

カマドは、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏、土錘と鉄製品が出土した。鉄製品は両側に挟りがあり、重さは9.80gである。

第28号住居跡 (第47・48図)

Q-4グリッドを中心に位置する。第43号・第44号住居跡の上に乗る、第2号住居跡に切られている。平面は、軸長5.40m×5.17mのやや歪んだ方形で、深さ17cm程を測る。壁溝は北壁と西壁の一部で検出し、

幅14cm程、深さ3~6cm程を測る。主軸方位は、N-28.5°-Wを指す。

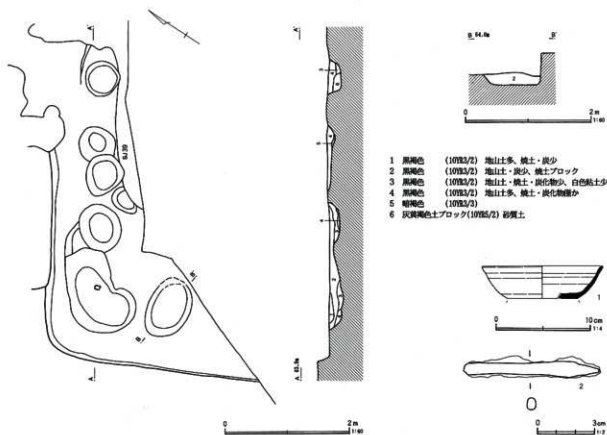
カマドは、北壁の中央に設けられている。燃烧部は、100cm×60cmで床面から深さ16cmを測る。煙道部は25cm確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、土錘、石製紡錘車、耳環、白玉、管玉が出土した。紡錘車・玉類は覆土からの出土である。4の紡錘車は未製品で、長径4.34~4.72cmの方形味味、短径3.12~3.30cm、孔径0.47cm、高さ3.10cm、重さ89.32g。5は金銅製耳環で外径1.62cm、内径0.93cm、重さ0.20g。6は白玉で径11.2~11.8mm、5.0mm、孔径2.7mm、重さ0.94g。7は石製管玉で、長さ11.2mm、径3.4mm、孔径2.0mm、重さ2.29gである。

第27号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	5.75	1.39	0.53	8.17	B a	淡黄	100	

第46図 第27号住居跡



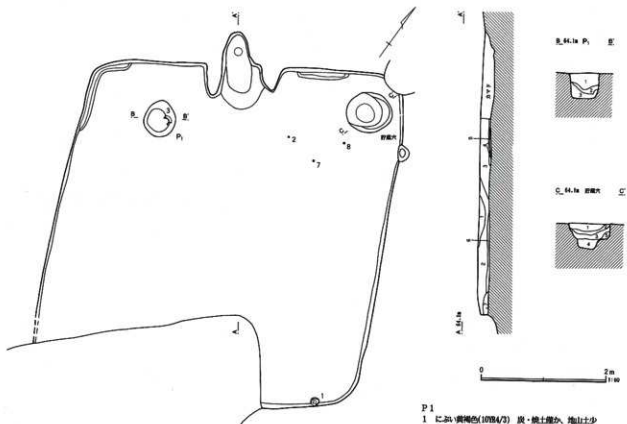
第27号住居跡出土遺物観察表 (第46図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.8)	3.5	(7.4)	B I L	良	灰	20	SJ26 B区	底部右回転へラ削り

第28号住居跡出土土器観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.20)	1.47	0.60	(3.48)	B a	浅黄橙	20	B区
2	(2.40)	1.74	(0.58)	(3.11)	B	褐灰	10	A区
3	(2.63)	1.35	0.65	(3.64)	A a	橙	20	A区
4	(2.91)	1.50	0.58	(4.69)	B a	灰黄褐	30	A区
5	(3.54)	1.33	(0.60)	(2.65)	B a	褐灰	30	A区
6	(3.08)	1.56	0.51	(6.07)	B a	にぶい橙	50	B区
7	(3.91)	1.39	0.50	(6.37)	B a	にぶい橙	70	A区
8	(4.23)	1.38	0.50	(6.66)	B a	浅黄橙	80	
9	(4.19)	1.56	0.58	(7.31)	B a	淡黄	80	A区
10	(4.48)	1.22	0.45	(5.43)	A a	にぶい橙	80	
11	(4.95)	1.48	0.55	(7.13)	B	にぶい橙	70	
12	(4.19)	1.94	0.62	(9.20)	C	褐灰	40	A区
13	(7.16)	1.45	0.50	(12.03)	B a	淡黄	95	

第47図 第28号住居跡・カマド



- 1 暗褐色 (10YR3/3) 地山土少、炭・焼土僅か
 2 黒褐色 (10YR3/2) 地山土及焼灰土ブロック多、焼土・炭少
 3 暗褐色 (10YR3/2) 地山土及焼灰土を均等に含み、焼土・炭少
 4 炭化物層
 5 暗褐色 (10YR3/3)
 6 黒褐色 (10YR3/1) 褐色土のブロック、焼土・炭少
 7 におい・黄褐色(10YR4/3) 地山土ブロック、焼土・炭僅か

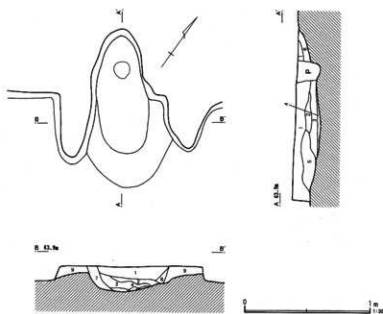
P1

- 1 におい・黄褐色(10YR4/3) 炭・焼土僅か、地山土少
 2 黒褐色 (10YR3/2) 焼土・炭・地山土少
 3 暗褐色 (10YR3/3) 地山土多、焼土・炭僅か

行蔵穴

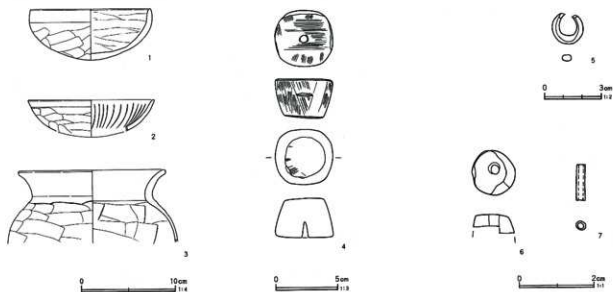
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土・炭僅か
 2 暗灰色 (10YR4/1) 焼土・炭少
 3 黒褐色 (10YR3/2) 地山土(ブロック含)、焼土・炭少
 4 暗褐色 (10YR3/3) 地山土(ブロック含)多、炭僅か
 5 におい・黄褐色(10YR4/3) 地山土主体、楕によるカケラン

カマド



- 1 におい・黄褐色(10YR4/2) 焼土・炭化物多
 2 褐色 (10YR4/4) 地山土多、焼土・炭少
 3 褐色 (10YR4/4) 地山土・焼土ブロック多、炭少
 4 黒褐色 (10YR3/1) 炭化物主体
 5 黒褐色 (10YR3/2) 地山土・焼土少、炭化物層
 6 赤褐色 (5YR4/5) 焼土ブロック主体
 7 黒褐色 (10YR3/2) 地山土・炭少、焼土ブロック多
 8 黒褐色 (10YR3/1) 地山土少、炭多
 9 灰黄褐色 (10YR4/1) 地山土主体、炭僅か

第48図 第28号住居跡出土遺物



第28号住居跡出土遺物観察表 (第48図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.6)	5.4		BEJL	普通	橙	80	No4	
2	坏	(13.4)			H	普通	褐	20	No3	床+4cm 暗文土器
3	甕	(15.6)			DGJ	普通	にぶい赤褐	45	No5	P 4

第29号住居跡 (第49・50図)

M・N-7・8グリッドに位置する。第30号住居跡カマドを切っている。壁溝により確認できたもので、北壁は不明であるが平面は、軸長4.48m×5.61mのやや歪んだ方形である。壁溝は、19~77cm、深さ4~11cm程を測る。主軸方位は、N-25°-Wを指す。

カマドは、北壁部分のやや西寄りに設けられている。焼成部は、74cm×33cmで楕円形を呈し、深さ15cmを測る。

柱穴は4本の主柱穴が検出された。P1・2は長軸75~80cm、短軸50~58cmの楕円形で深さ70cm、P5・6は径45~50cmの円形で、深さ38~45cmを測る。

遺物は、土師器甕、土錘、石製紡錘車、石製模造品の有孔円板が出土した。石製品はいずれも壁溝から出土した。3は石製紡錘車で長径3.96cm、短径1.96~2.03cm、高さ2.05cm、0.69~0.73cm、重さ46.35g。4は石製模造品の有孔円板で、縦2.70cm、横3.04cm、厚さ0.35cm、孔径1.0~1.2mm、重さ5.44gである。

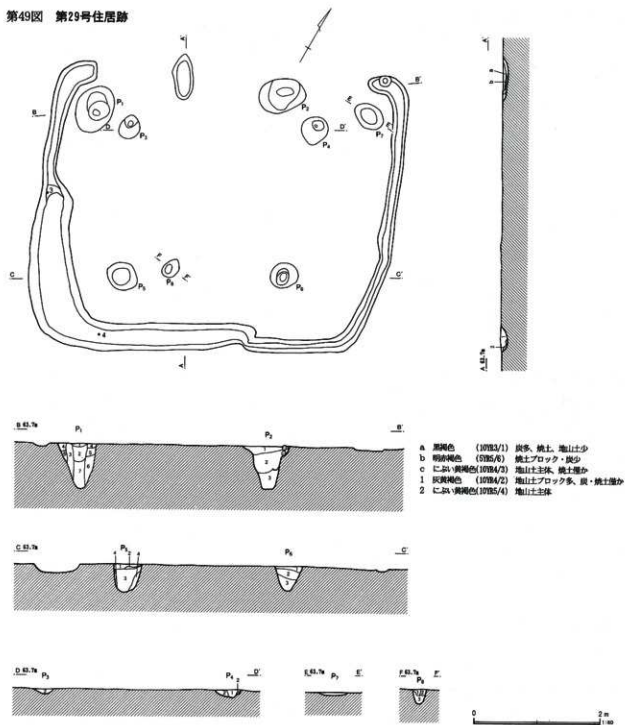
第30号住居跡 (第51・52図)

N-8グリッドを中心に位置する。第29号住居跡に切られ、第36号・第73号住居跡を切り、第50号・第51号住居跡の上に乗っている。平面は、軸長4.14m×4.37mの方形で、深さ16cm程を測る。壁溝は断続的であるがほぼ全周し、幅8~20cm、深さ4~5cm程を測る。カマドのある北壁を除いて拡張が認められた。主軸方位は、N-30°-Wを指す。

カマドは、北壁で西寄りに設けられている。焼成部は、125cm×57cmで楕円形を呈し、深さ17cmを測る。煙道部は焼成部と段差を有し、13cmほど確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵坏・蓋・瓶口縁部、土錘、砥石が出土した。13・14は砥石で、13は完形で5面使用され、縦3.80cm、横3.94~4.13cm、厚さ0.98~1.38cm、重さ30.92g。14は一方が欠損し5面使用されている。残存長3.65cm、幅2.53~3.00cm、厚さ1.08~1.71cm、重さ28.18gである。

第49図 第29号住居跡



- a 黒褐色 (107B3/1) 炭多、焼土、地山土少
 b 明褐色 (107B5/6) 焼土ブロック、炭少
 c ニオイ黄褐色(107B4/3) 地山土主体、焼土層か
 1 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土ブロック多、炭・焼土層か
 2 ニオイ黄褐色(107B5/4) 地山土主体

- P1
 1 ニオイ黄褐色(107B4/3) 地山土少、焼土・炭層か
 2 ニオイ黄褐色(107B5/3) 地山土多、焼土層か
 3 ニオイ黄褐色(107B5/3) 地山土少、焼土層か
 4 ニオイ黄褐色(107B4/3) 地山土多
 5 ニオイ黄褐色(107B5/3) 地山土主体
 6 ニオイ黄褐色(107B4/3) 地山土少、焼土層か
 7 ニオイ黄褐色(107B4/3) 地山土多、炭化物層か

- P2
 1 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土多、炭・焼土層か
 2 ニオイ黄褐色(107B4/3) 地山土少、炭・焼土層か
 3 ニオイ黄褐色(107B5/3) 地山土多、炭化物層か

- P3・4
 1 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土多、炭層か
 2 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土少

- P5・6
 1 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土多、炭・焼土層か
 2 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土ブロック、焼土・炭化物層か
 3 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土ブロック少、焼土・炭化物層か
 4 灰黄褐色 (107B4/2) 地山土少

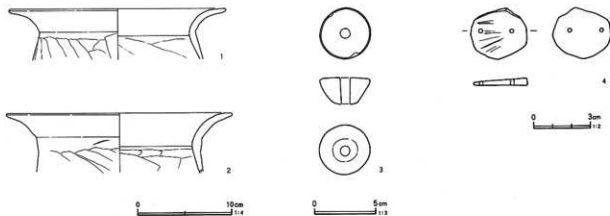
- P7 黒褐色 (107B3/2) 地山土少、炭化物層か

- P8
 1 黒褐色 (107B2/2) 地山土ブロック多
 2 黒褐色 (107B2/2) 地山土岩
 3 黒褐色 (107B2/2) 地山土ブロック少

第29号住居跡出土土器観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.34)	1.83	(0.56)	(6.26)	E	褐灰		壁溝
2	(3.79)	1.34	0.55	(6.27)	A	浅黄橙		P 2
3	(4.04)	1.82	0.60	(10.91)	B	橙	50	壁溝

第50図 第29号住居跡出土土器



第29号住居跡出土土器観察表 (第50図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甕	(23.0)			E J	普通	にぶい黄橙	10	P 1・P 2	
2	甕	(24.0)			B D E	普通	橙	10	P 2	

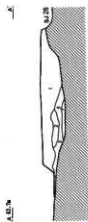
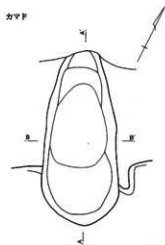
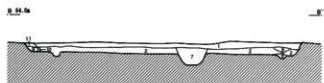
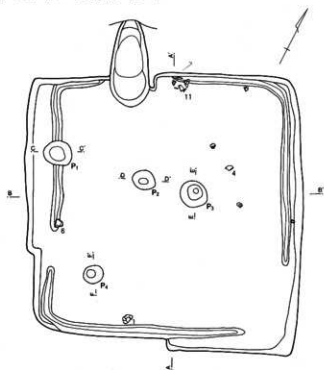
第30号住居跡出土土器観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.15)	1.53	0.58	(5.06)	B a	にぶい黄橙	40	D区
2	(3.42)	1.46	0.55	(6.54)	A	にぶい黄橙	30	D区
3	(3.94)	1.48	0.50	(7.09)	B a	浅黄橙	60	D区
4	(4.34)	1.54	0.55	(8.99)	B a	褐灰	90	A区
5	(5.18)	1.59	0.75	(9.23)	B a	にぶい橙	80	C区
6	(6.39)	1.58	0.52	(11.15)	B a	橙	80	C区
7	6.54	1.64	0.55	14.58	B a III	黄灰	100	C区
8	6.85	1.80	0.50	23.43	B a III	浅黄橙	100	B区
9	7.04	1.87	0.64	23.27	B a III	淡黄	100	A区
10	7.83	1.94	0.48	(23.40)	B a III	黄灰	95	D区
11	(7.17)	2.38	0.45	(28.40)	C a III	浅黄	90	C区
12	6.90	2.73	0.60	41.59	B a III	淡黄	100	C区

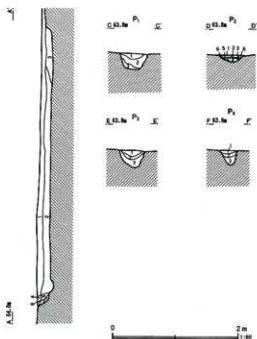
第30号住居跡出土土器観察表 (第52図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	14.1	3.6		A F G	普通	にぶい橙	90	No7	
2	坏	(12.6)	3.2		D J	不良	にぶい橙	30	C区	
3	坏	(12.4)	3.0		B D	不良	橙	20	D区	
4	坏	(12.6)	3.9		B D	不良	橙	25	No4	
5	坏	(12.0)			B E	普通	橙	15	B区	
6	碗			10.2	B I J	良	灰	60	No8	
7	甕	(16.4)			B	良	暗灰	10	D区	
8	瓶	(7.6)			—	良	灰	30	D区	
9	甕	(14.0)			B F	不良	にぶい橙	10	D区	
10	甕	(23.0)			B G	不良	橙	35	C区	
11	甕	(24.0)			B E	不良	にぶい橙	15	B区	
12	甕	(24.0)			B J	普通	にぶい橙	60	No9・B区	床

第51図 第30号住居跡・カマド



- 1 茶褐色 (10785/3) 焼土・炭化物・黄褐色土やや多
- 2 暗褐色 (2.5785/8) 焼土を主体、暗褐色土・炭化物多、黄褐色土少
- 3 暗褐色 (10783/4) 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少
- 4 暗褐色 (10785/8) 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少



- 1 にお・黄褐色(10784/3) 焼土粒子、カーボン粒子
- 2 褐色シルト (10784/4) 明黄褐色シルト
- 3 褐色 (10784/4) カーボン粒子
- 4 にお・黄褐色(10784/3) 白色粒子
- 5 暗褐色シルト(10783/3)
- 6 暗褐色シルト(10783/3) 明黄褐色シルト極多
- 7 にお・黄褐色(10784/3) 炭化物・灰白色シルト
- 8 明黄褐色シルト(10786/8)
- 9 褐色シルト (10784/4) 明黄褐色シルト極多
- 10 褐色砂粒 (10784/4)
- 11 褐色シルト (10784/4)

P1

- 1 茶褐色 (10786/4) やや砂質、焼土・炭化物少
- 2 暗茶褐色 (10784/4) 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少
- 3 暗黄褐色 (10787/8) 暗褐色土やや多

P2

- 1 暗灰褐色 (10786/7) 焼土・炭化物少、黄褐色土やや多
- 2 灰白色 (2.5786/8) 焼土・炭化物少、暗褐色土やや多
- 3 灰白色 (2.5786/8) 暗褐色土少
- 4 暗褐色 (10784/2) 黄褐色土少
- 5 灰褐色 (2.5787/4) 焼土・炭化物少
- 6 茶褐色 (10785/8) 焼土・炭化物やや多

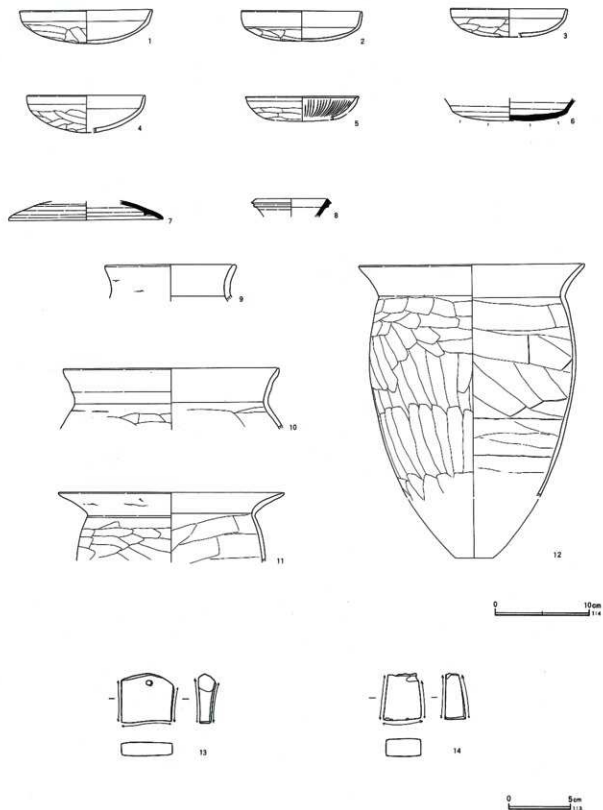
P3

- 1 暗茶褐色 (10784/8) 焼土・炭化物・黄褐色土少
- 2 灰褐色 (10787/1) 灰色粘質土主体、炭化物・黄褐色土・茶褐色土少

P4

- 3 茶褐色 (10786/6) 炭化物少、黄褐色土やや多
- 1 茶褐色 (10785/8) 焼土・炭化物・灰褐色土少
- 2 暗褐色 (10783/3) 焼土・炭化物やや多
- 3 黄褐色 (10787/8) 暗褐色土少

第52図 第30号住居跡出土遺物



第31号住居跡 (第53図)

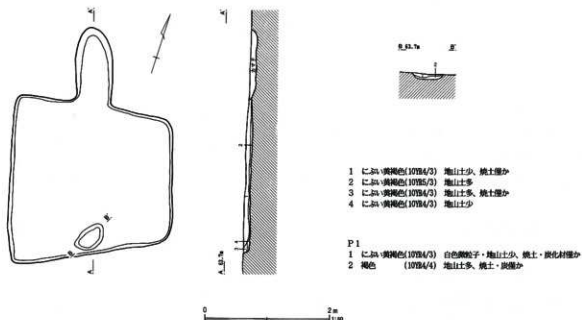
L-8グリッドを中心に位置する。平面は、軸長2.35m×2.60mの台形で、深さ11cm程を測る。主軸方位は、N-18°-Wを指す。

カマドは、北壁中央に設けられている。燃焼部は、

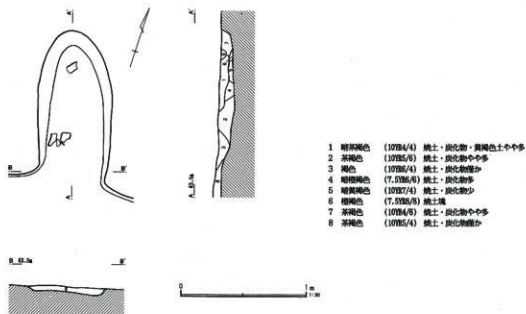
112cm×60cmで、床面から深さ10cmの浅い窪み状を呈している。

遺物は、須恵器坏片・蓋片、土師器坏片・甕片が出土したが、図示できるものはなかった。

第53図 第31号住居跡・カマド



カマド



第32号住居跡 (第54図)

O-7グリッドに位置する。第14号・第15号住居跡に切られている。平面は、軸長3.14m×4.16mの長方形で、深さ7cm程を測る。主軸方位は、N-29°-Wを指す。

カマドは、北東壁に設けられている。焼部は、91cm×53cmで楕円形を呈し、床面から深さ5cmの浅い窪み状を呈する。

遺物は、土師器坏・甕が出土した。

第32号住居跡出土遺物観察表 (第54図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	12.0			A D	普通	にぶい橙	60	No1	カマド左袖
2	坏	(14.0)	3.7		B D	普通	灰褐	40	No2・B区	床+4cm 内面一部油煙付着
3	坏	(14.0)	3.8		E	普通	褐	15	A区・B区	内面黒色
4	甕			(7.2)	A E J L	普通	橙	60	B区	

第33号住居跡 (第55・56図)

M-8・9グリッドに位置する。第59号・第60号・第62号住居跡を切っている。平面は、軸長4.30m×4.93mの台形で、深さ20cm程を測る。主軸方位は、N-21°-Wを指す。

カマドは、北壁の東寄りに設けられている。焼部は、106cm×66cmで楕円形を呈し、床面から深さ10cm

を測る。煙道部は焼部との間に段差を有し、57cm確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器蓋、土錘、石製紡錘車が出土した。10の紡錘車は、一部欠損しているが長径3.83~3.37cm、短径2.77~2.80cm、高さ1.54cm、孔径0.66~0.75cm、重さ33.59gである。貯蔵穴の上面から9の甕と共に出土した。

第33号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.68)	1.54	(0.46)	(3.55)	B	橙		B区
2	(2.90)	1.60	0.52	(5.81)	B a	にぶい黄橙	40	B区
3	(5.16)	1.94	0.50	(13.92)	B a	にぶい黄橙	60	C区
4	6.33	1.48	0.48	11.70	B a IV	にぶい橙	100	カマド
5	6.06	1.78	0.55	14.96	B a IV	褐灰	100	A区
6	(6.20)	1.85	0.58	(18.15)	B a	橙	90	貯蔵穴
7	(6.37)	1.81	0.51	(17.15)	B a	淡黄	90	C区

第34号住居跡 (第57・58図)

N-8・9グリッドを中心に位置する。第36号住居跡に切れ、第50号・第51号住居跡の上に乗っている。平面は、軸長5.61m×6.02mの方形で、深さ15cm程を測る。壁溝は、断続的ではあるがほぼ全周し、幅12~17cm、深さ4~12cmを測る。主軸方位は、N-67°-Eを指す。

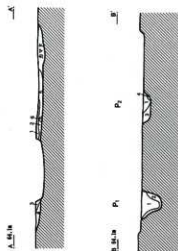
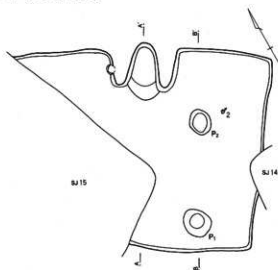
柱穴は4本の主柱穴が検出された。長軸80~87cm×短軸45~67cmの楕円形と径70cmの円形で、深さ45~70cmを測る。

カマドは、東壁の南に偏して設けられている。焼部は、195cm×56cmで楕円形を呈し、床面から深さ16

cmを測る。

出土遺物は、土師器坏、須恵器坏、土錘、鉄製品、石製模造品、白玉、土玉が出土した。図示はできないが緑釉陶器片が出土した。5の石製模造品は有孔円板で、縦2.25cm、横2.80cm、厚さ0.32~0.52cm、重さ4.96g。床から僅かに浮いた状態で出土した。6は刀子で、重さ29.82g、覆土中から出土した。7~10は白玉で、7は径4.7mm、厚さ2.8~4.0mm、孔径1.8mm、重さ0.14g。8は径5.1mm、厚さ2.2~3.6mm、孔径2.0mm、重さ0.14g。9は径6.0~6.1mm、厚さ3.7~

第54図 第32号住居跡

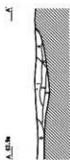
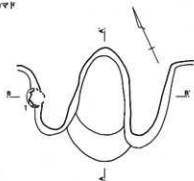


- 1 赤褐色 (107B5/3) 黄褐色土少、焼土・炭化物少
- 2 暗黄褐色 (107B7/8) 茶褐色土や中多、焼土・炭化物少
- 3 灰褐色 (107B6/4) 鉄質、鉄・マンガン質多
- 4 暗黄褐色 (107B5/7) 茶褐色土や中多
- 5 暗黄褐色 (107B7/6) 茶褐色土や中
- 6 焼土塊

P1・2

- 1 暗黄褐色 (107B4/4) 焼土・炭化物や中多、黄褐色土多
- 2 茶褐色 (107B6/4) 焼土・炭化物少
- 3 暗黄褐色 (107B4/4) 焼土・炭化物少、黄褐色土や中多
- 4 褐色 (107B6/6) 茶褐色土や中多

カマド

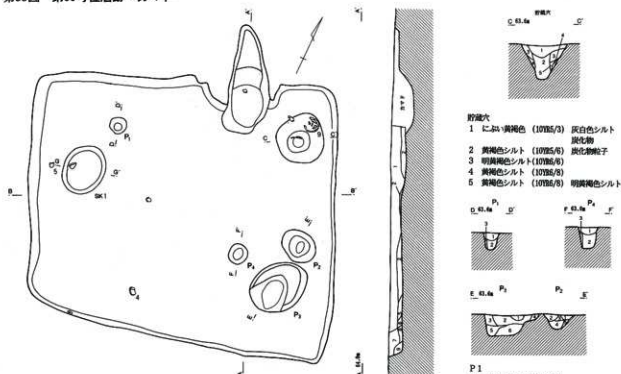


- 1 茶褐色 (107B5/3) 焼土ブロック多量、黄褐色土や中多
- 2 暗黄褐色 (2.57B4/6) 焼土層、褐色土を僅かに
- 3 褐色 (107B6/4) 焼土層のみ、茶褐色土少
- 4 茶褐色 (107B5/4) 焼土・炭化物や中多
- 5 暗黄褐色 (107B4/6) 焼土・炭化物少
- 6 暗黄褐色 (107B7/6) 茶褐色土や中多
- 7 灰褐色 (107B7/2) 焼土・炭化物少



0 10cm

第55図 第33号住居跡・カマド



B 53.5a

A 53.5a

G 53.5a SK1



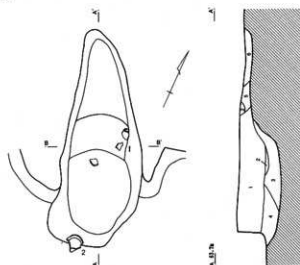
SK 1

- 1 褐色シルト (10YR4/4) 白色炭粒子多、カーボン粒子若干
- 2 褐色シルト (10YR4/4) 明黄褐色土多
- 3 褐色シルト (10YR4/4) 炭・灰
- 4 褐色シルト (10YR4/4) 焼土層多
- 5 褐色シルト (10YR4/4) 明黄色土層若干
- 6 褐色シルト (10YR4/4) 灰白色シルト
- 7 明黄褐色シルト (10YR5/6)
- 8 におい黄褐色 (10YR5/4)
- 9 褐色シルト (10YR4/4)

- 1 暗褐色 (10YR3/3)
- 2 褐色 (10YR4/4) カーボン粒
- 3 褐色 (10YR4/4) カーボン粒
- 4 明黄褐色シルト (10YR5/6)



カマド



A 53.7a

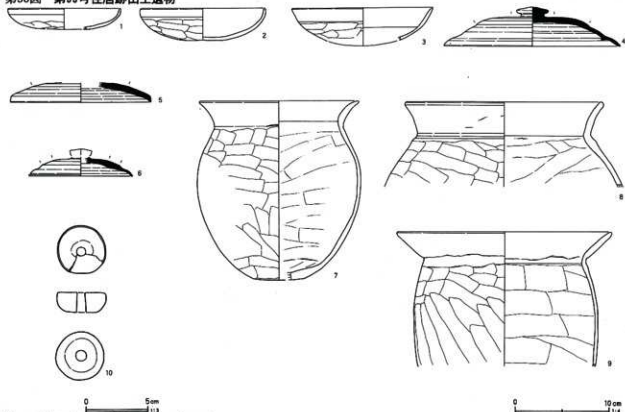
B 53.7a



- 1 褐色シルト (10YR4/4) カーボン粒子・焼土粒子若干
- 2 焼土層
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 焼土多
- 4 におい黄褐色 (10YR4/3)
- 5 明黄褐色シルト (10YR5/6)
- 6 におい黄褐色 (10YR5/4)



第56図 第33号住居跡出土遺物



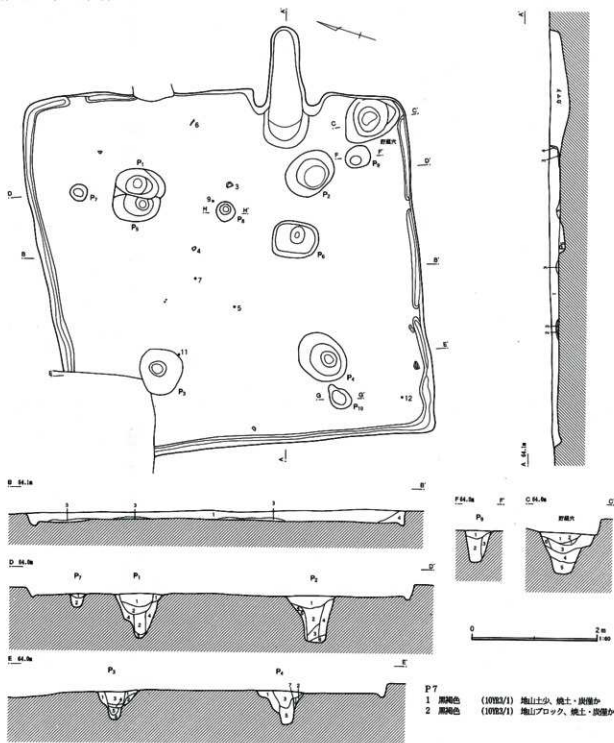
第33号住居跡出土遺物観察表 (第56図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.0)	2.2		B	不良	にぶい赤褐	10	P 2	
2	坏	(13.2)	3.4		DE J	不良	橙	45	No9	
3	坏	(15.0)			J	不良	にぶい橙	15	D区	
4	壺	(18.8)	4.2		B L	良	褐灰	35	No1	
5	壺	(15.0)			B J	良	灰	15	No4	床 つまみ径3.4 ~ 3.5cm
6	壺	(11.0)			F L	不良	灰黄	45	D区	天井部ヘラ削り
7	甕	(17.0)	18.9	(5.4)	D J	普通	にぶい赤褐	40	No2	床+5cm 天井部右回転ヘラ削り
8	甕	(21.0)			B F J L	普通	にぶい橙	25	No2	天井部右回転ヘラ削り
9	甕	22.8			E J L	普通	にぶい橙	60	No6 - B区 SJ33No5	貯蔵穴

第34号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.32)	1.12	(0.47)	(1.18)	B	にぶい橙		B区
2	(1.99)	1.25	0.55	(1.75)	B a	褐灰	20	A区
3	(2.31)	1.39	0.45	(3.22)	B a	淡黄	30	A区
4	(3.00)	1.45	0.58	(5.40)	B a	淡黄	50	A区
5	(3.52)	1.47	0.68	(6.19)	B a	淡黄	50	B区
6	(4.45)	1.50	0.55	(8.03)	B	黒褐	60	C区
7	(4.55)	1.80	0.55	(13.61)	B	橙	70	D区
8	4.77	1.73	0.62	10.93	B a V	橙	100	A区
9	(5.16)	1.58	0.52	(11.68)	B	淡黄	90	D区
10	6.08	1.31	0.48	9.30	B a IV	橙	100	B区
11	(6.32)	1.77	0.60	(14.38)	B	にぶい橙	95	D区
12	6.32	1.72	0.52	16.80	B a IV	にぶい黄橙	100	A区
13	(5.92)	1.92	0.45	(18.96)	B a	にぶい橙	90	B区
14	6.53	1.96	0.50	21.63	B a III	褐灰	100	
15	7.97	2.05	0.55	(19.54)	B a II	褐灰	90	D区

第57図 第34号住居跡



- 1 暗茶褐色 (10785/4) 焼土・炭化物やや多、黄褐色土多
- 2 黒褐色 (10782/2) 炭化物多
- 3 黄褐色 (10787/8) 暗褐色土層か
- 4 褐色 (10785/6) 焼土・炭化物・暗褐色土少

P1 - 2

- 1 灰黄褐色 (10784/2) 地山土若干、焼土・炭少
- 2 黒褐色 (10782/2) 地山ブロック・焼土・炭少
- 3 黒褐色 (10783/2) 地山土・黄褐色土ブロック・炭少
- 4 黒褐色 (10782/2) 地山ブロック多、焼土・炭層か
- 5 におい黄褐色(10784/3) 地山土多

P3 - 4

- 1 灰黄褐色 (10784/2) 地山土若干、焼土・炭少
- 2 黒褐色 (10783/2) 地山ブロック多、焼土・炭層か
- 3 黒褐色 (10783/1) 地山土少、焼土・炭層か
- 4 黒褐色 (10783/1) 炭化物多、焼土・地山土層か
- 5 黒褐色 (10783/1) 地山土多
- 6 黒褐色 (10783/2) 地山土多
- 7 黒褐色 (10783/1)

P7

- 1 黒褐色 (10783/1) 地山土少、焼土・炭層か
- 2 黒褐色 (10783/1) 地山ブロック、焼土・炭層か

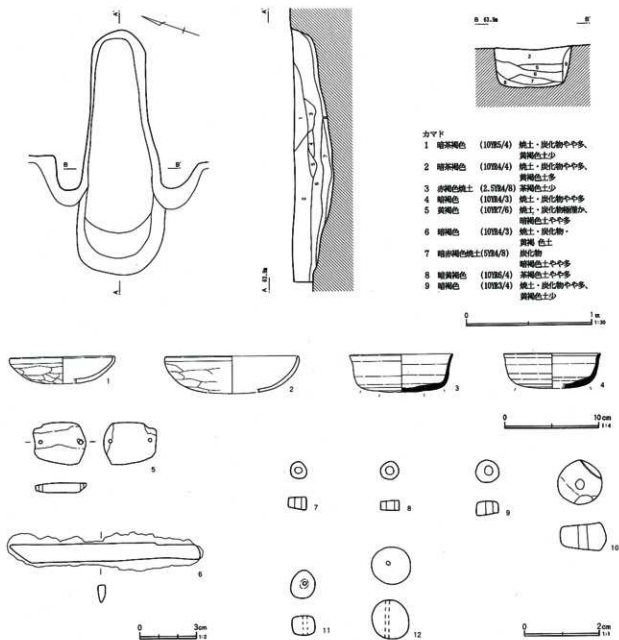
P9

- 1 黒褐色 (10783/1) 地山土少、炭層か
- 2 黒褐色 (10782/1) 炭化物多、焼土少
- 3 黒褐色 (10783/2) 地山土多

貯蔵穴

- 1 黒褐色 (10783/2) 地山土多、焼土・炭少
- 2 黒褐色 (10782/1) 炭化物多、焼土少
- 3 黒褐色 (10783/2) 地山土少、焼土・炭層か
- 4 黒褐色 (10783/1) 地山土少、焼土・炭層か
- 5 におい黄褐色(10784/3) 地山土多
- 6 黒褐色 (10783/2) 地山土多

第58図 第34号住居跡カマド・出土遺物



カマド

- 1 暗茶褐色 (10B5/4) 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少
- 2 暗茶褐色 (10B4/4) 焼土・炭化物やや多、黄褐色土多
- 3 赤褐色焼土 (2.5B4/8) 茶褐色土少
- 4 暗褐色 (10B4/3) 焼土・炭化物やや多
- 5 黄褐色 (10B7/6) 焼土・炭化物微量か、暗褐色土やや多
- 6 暗褐色 (10B4/3) 焼土・炭化物、黄褐色土
- 7 暗赤褐色焼土(5B4/8) 炭化物
- 8 暗茶褐色 (10B5/4) 茶褐色土やや多
- 9 暗茶褐色 (10B5/4) 焼土・炭化物やや多、黄褐色土少

第34号住居跡出土遺物観察表 (第58図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(11.0)	2.9		B J	不良	橙	15	C区	
2	坏	(14.0)			A B D	不良	にぶい橙	10	A区	
3	坏	(11.0)	4.0	(8.6)	A B E H J L	不良	黄灰	60	No9	底部周辺回転へう削り
4	坏	(10.2)	3.7	(7.6)	B J	良	灰	25	No11	底部右周辺回転へう削り

3.8mm、孔径1.6mm、重さ0.23g。10は径1.8~2.3mm、厚さ5.5~6.8mm、孔径2.2mm、重さ1.48g。7・10は床面、9は床上5cmで出土した。11・12は土玉で、

11は径6.8~7.3mm、厚さ5.1~5.5mm、孔径1.8mm、重さ0.29g。12は径1.02~1.07mm、高さ10.0mm、孔径1.0mm、重さ1.21g。